

318

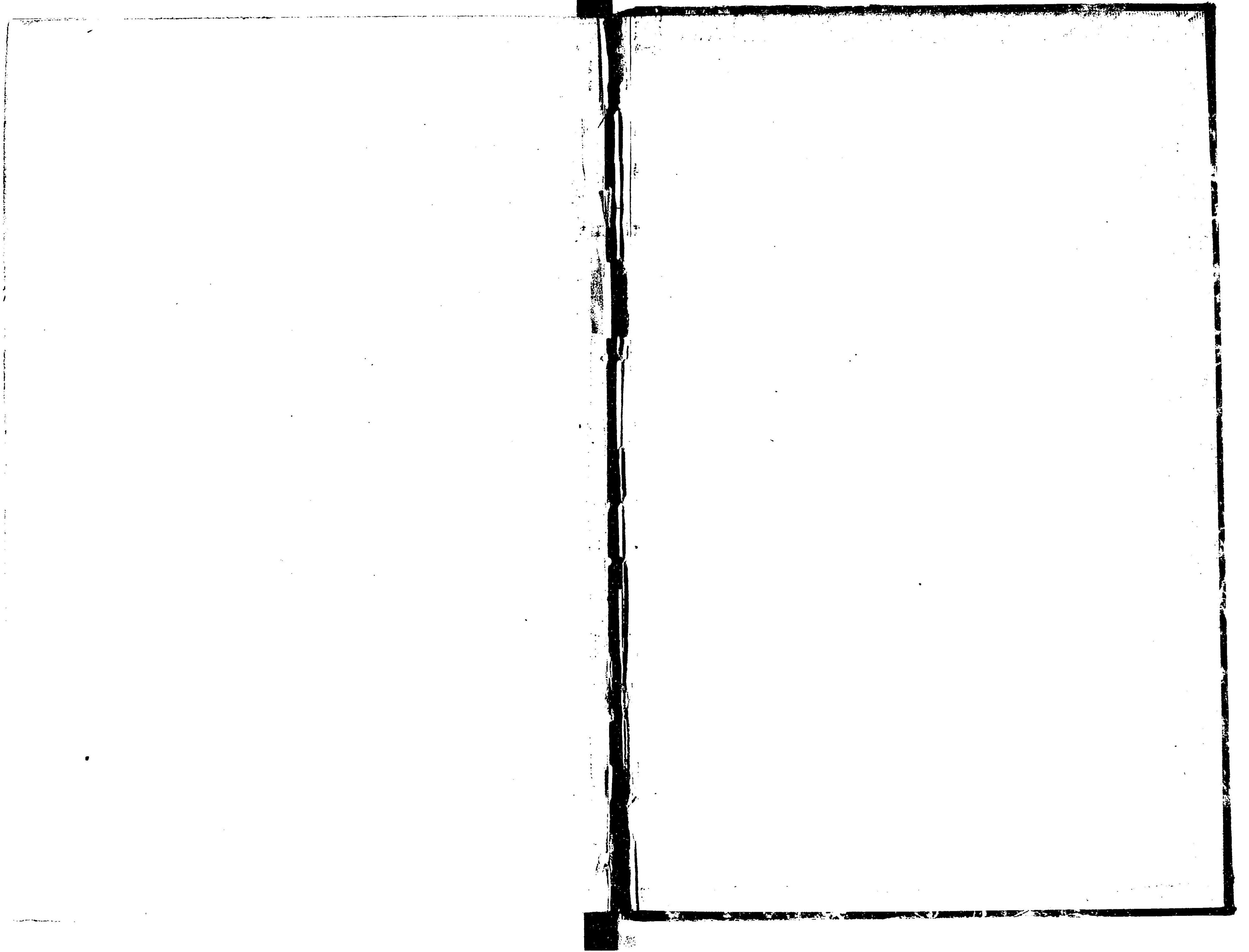
126

唯心劍士著

ブーア戦論

全

東京 兵林館發行



308-126

唯心劍士著



# 戰論

全

明治  
37 1 8  
内交

東京  
兵林館發行

## 「ブーア」戰論

### 序

「彼ノ有名ナル哲學者」シヨッペンハウエル曰ハク「或ル對象ニ就ヒテ是非ノ思考ハ、内部ノ性質及ビ緊張ト、外形ノ顯出トノ幸福ナル和調的一致トニ因リテ自カラ決定セラレザル可ラズ」ト

南亞戰ハ從來歐洲各地ニ於テ發起セシ野戰ニ比スレバ、全ク一種特別ナル方法ヲ以テ、軍事上ニ數多ノ利益ヲ與ヘタリ、南亞戰以前ニ於ケル戰爭ハ、通常軍隊指揮ノ講究ニ向ツテ豐富ナル資料ヲ呈セシト雖モ、南亞戰ハ是ニ反シ、實際的ノ結果ニ依ツテ、下級指揮官及ビ各兵卒ニ、卓越ナル教示ヲ與ヘシムベキ、戰鬪現象

ヲシテ吾人ヨリ遠ザカラシメタリ、  
南亞戰役ノ實施セラレタル地區ハ、是レヲ狹義ニ觀察セバ、恰モ吾人ガ平時使用スル演習場ト大ニ類似ノ觀ヲ呈ス、而シテ又英杜兩軍ノ遭遇セシ狀況モ殆ンド吾人ガ平時施行スル演習ト同一ノ光景ヲ現ハセリ、平時ノ演習ニ在リテハ、銃砲火力ノ不足ト、多少個人的勇氣ノ發展ヲ現ハスタメ、逼迫的狀態、即チ突撃ノ實施ハ、演習上ノ一手段トシテ正當ナルコトハ吾人疑ハザル所ナリト雖モ、實際ニ於テモ亦タ決シテ不可能事ニアラズ、現ニサン、ブリバー附近ノ戰鬪ヲ想起セバ、効力顯著ナル連發火力ノ下ニ於テ、彼ノ密集部隊ノ突撃ハ、働作ノ可能ヲ證明セシニアラズヤ、

現今ニ於ケル火器ノ威力ハ、遠距離ニ在ルモ既ニ戰機ヲ制シ、近接戰鬪ノ變移ハ、其實行容易ナラントノ世上一般ノ假想ハ、南亞戰

役ノ結果、一種ノ虛忘ナルコトヲ證明セリ、實ニ該戰役ニ於テ英軍ハ火力ノ優勢ヲ占メナガラ、ソノ戰鬪目的ヲ速成スル能ハズ、且ツブリア軍ノ戰鬪法ヲモ、充分ニ認識スルヲ得サリシニアラズヤ、  
密集隊形ハ短少ノ瞬間ニ於テ、莫大ナル損害ヲ蒙リ、ソノ大部隊ハ不快ナル隊形ノ紊亂ヲ醸發セリ、

ブリア軍ハ非常ナル耐忍ヲ以テ其防禦ヲ持續セントシ、英軍ハ敵ヲ彼レノ陣地ヨリ誘出シテ之ヲ攻撃シ、若シクハブリア固有ノ戰法ニ陥リ、突撃部隊ガ再ビ撃退ニ遭フガ如キコトナランガタメ、火力ヲ以テ痛キ打撃ヲ與ヘントシ、却ツテ漸次ニ其困難ヲ増加セリ、以上彼我ノ働作、恰モ我が平時演習ノ狀況ニ髣髴タルモノアリ、  
南亞戰役ノ事蹟以上ノ如クナルヲ以テ見レバ、該戰役間ニ於テ發生セシ如何ナル戰鬪現象ガ、用ヒテ以テ軍隊教育ニ利益ヲ附與スベ

キカハ自カラ疑問ニ屬ス、既ニ戰役ノ全般ニ一瞥ヲ投ズルモ、事實、新戰術ト認定スベキモノナキニ非ラズヤ、只ダ其戰鬪働作トシテ吾人ニ注目ヲ惹クモノハ、「ブーア」兵ノ射撃ニ巧妙ナルト、武器ノ使用ニ熟練セルトニ在リ、此個人的能力ハ、戰鬪働作ニ大ナル餘地ヲ與ヘタルヲ明カナリ、斯ノ如キ射撃ノ堪能、武器使用ノ熟練、軍隊教育上實ニ希望ニ堪ヘザル所ナリト雖モ、如何ニセバ以上ノ如キ堪能、熟練ヲ達成シ得ルヤハ疑問タラザルヲ得ズ、

以上陳ブル所ヲ以テスレバ、軍ハ只タ兵卒各個ノ教育、及ビ各種補助方法ノ利用ノミヲ以テ足レリトセズ、却ツテ下級指揮官ノ能力ヲ養成シ、ソノ働作ノ總テヲシテ、指揮官ノ意圖ニ適合セシムルヲ緊要ナリトス、

原 著 者 識

## 緒 言

南亞ノ戰役ニ關スル數多ノ評論、及ビ批難ハ、今日ニ至ルマデ、或ハ講話ニ依リ、或ハ論文ニ據リ、嶄新ナル語氣ト論鋒トヲ以テ、英杜兩軍ノ行動ヲ貫通シ、學說及ビ實施ニ向ツテハ、價值多キ思想ヲ以テ補填セラレタリ、斯ノ如ク世上ノ論難攻撃數多ナルニモ不拘、其主要事件ヲ概括スレハ次ノ三項ニ外ナラズ、

- 一、武器ノ使用ニ熟練セル兵卒ノ所持スル連發銃ハ、我が銃口ニ敵ノ達スルマデ、能ク防禦ヲ持續シ、又決戰ニ際シテハ、複雑ナル武器ノ利用ニ因リ、卓越ナル技術ヲ演シ得ベキヲ
- ハ、射撃ニ堪能ナル、「ブーア」軍ノ特別ナル散兵線ノ性質ニ據リテ證明セラレタリ、

二、英軍ハ遠距離ニ在ツテモ亦タ敵ノ歩兵火ニ因リテ密集部隊ノ廢止ヲ餘儀ナクセラレ、近距離ニ在ツテハ稠密ナル散兵線ガ敵ニ對シテ高目標ヲ呈シツ、アル間ハ、爾後ノ戦闘持續ヲ危カラシムルガ如キ、夥多ノ損害ヲ蒙レリ、是レ故ニ散兵線ヲ以テスル近接働作ハ、可成稀レニ且ツ只タ短時機ニ於テノミ大目標トシテ敵火ノ下ニ曝露スベク、而シテ我が射撃ノ威力、敵ノ抵抗力ヲ全ク撲滅セシヲ知リシ時ニ至リ、始メテ我が火力ノ優勢ヲ認識スベキノ緊要ヲ包含シ、其他ノ時機ニ於テスル近接働作ハ全ク無効ナルヲ知ラレタリ、

三、英杜兩軍ノ戦闘法ヨリシテ次ノ要求ヲ生ズ、平時ニ於テ演習ノ時機ヲ利用シ、吾人ガ南亞戰ニ依テ得タル新ラタナル

經驗ヲ可成屢々演習シ、而シテ此ノ經驗ヲ練兵場ニ於テスル教育目的ニ利用シ、價值アラシメンガタメ是レガ方法手段ヲ講究スベキト是ナリ、

以上ノ理由ヨリシテ防禦及ビ攻撃ニ關スル思想、及ビ演習場ノ利用ニ就ヒテ顧慮スルノ必要ヲ生ズ、今此ノ書ニ於テハ南亞戰役ノ事蹟ヲ精密ニ分類スルヲナク、其發現セシ事實ヲ、細大遺漏ナク網羅セシニ過キズ、故ニ直接戦闘働作ノ教範タル能ハザルナランカナレト、間接ニ此教育ヲ完全ナラシメントスル一材料トシテ參考セバ、決シテ無効ナルモノ非ラザルベシト信ズ、

# 「ブーア」戦論目次

序……………

緒言……………

## 第一、防禦……………

「ブーア」ノ散兵線……………

英杜兩軍兵力ノ比較……………

獨逸式トノ比較……………

「ブーア」戦ノ特性……………

射撃効力……………

散兵戦闘……………

散兵ノ各個教育……………

目次



目次

「ミイグシエ」ノ學說……………一〇  
射撃結果ノ認說……………一一  
射弾ノ散布……………一一  
射撃ノ精度ニ關スル「モルトケ」將軍ノ判定……………一四  
訓練……………一四  
射撃演習ニ關スル露國ノ定說……………一七  
照準裝置……………一八  
眼ノ慣練……………二〇  
眼ヲ慣ラズニ適スル標的……………二二  
距離測量……………二二  
射撃群……………二三  
敵眼ニ對スル警戒……………二四

目次

武裝……………二五  
服裝……………二六  
散兵ノ獨立……………二八  
小隊長……………二八  
指揮官ノ威信……………二九  
「ブーア」兵ノ個人的働作……………三一  
散兵ノ間隔……………三二  
「ブーア」ノ戰鬪群……………三三  
翼側豫備隊……………三六  
攻勢……………三七  
守勢……………三七

第二、攻撃

戦闘部隊ノ價值……………三九

射撃ノ優勢……………四一

歩兵操典……………四二

狭正面ヲ以テセシ英軍ノ攻撃……………四三

「ブーア」戦闘法ノ弱點……………四四

豫備隊……………四六

「ブーア」遠心的退却法……………四八

開進……………五〇

分隊縦隊ノ價值……………五一

中隊縦隊ノ運用……………五二

四小隊編成……………五三

縦隊先頭ノ警戒……………五三

後續部隊……………五六

隊伍ノ整頓……………五七

隊伍整頓ノ時期……………五八

散兵ノ間隔……………六一

望遠鏡……………六三

地圖材料……………六四

風力ノ測定……………六四

距離測量器……………六五

躍進ノ開始……………六六

「ブーア」兵ノ射撃時期……………六六

記號ニ依ル射撃ノ指揮……………六六

躍進ノ距離……………六八

下級指揮官ノ働作……………六九

銃ノ保持法……………七〇

英軍ノ不利ナル攻撃法……………七二

物質的ノ激勵……………七三

突撃的攻撃ノ價值……………七四

突撃戦法ノ價值……………七四

第三、練兵場……………七五

戰術上ノ原則……………七五

練兵場ニ於ケル戰鬪展開……………七六

「ドンケルヘーク」附近ノ展開距離……………七七

戰鬪命令……………七九

突撃戦法……………八二

標旗……………八二

部隊ノ限界……………八四

防禦及ビ攻撃……………八五

軍紀……………八七

工具……………八九

信號旗……………九〇

彈藥補充……………九一

突撃ノ實驗……………九二

第四、跋

九三

結論 ..... 1011

「ブーア」戦論目次終

ブーア戦論

第一、防衛

「ブーア」ノ散兵線

南亞戰ヲ論評ニ當リテハ、或ル觀念、即チ「ブーア」軍ノ節約的防禦線ハ

實際、防禦戰ニハ適當セザル方法ナリシナランカノ嫌ヒナキニシモア

ラズト雖モ、兎ニ角、戰術上ニ一種ノ新方式ヲ現出セントノ觀念ハ、當該

戰役ノ結果トシテ、本書ノ冒頭ニ表彰シ置カザルヲ得ズ、「ブーア」側

ニ在リテハ、數理上ノ弱勢ヨリシテ、自然戰鬪部隊ノ全兵力ヲ擧ゲテ火

戰ニ參與セシメ、豫備隊ヲ貯存スルコトナク、氣力消耗セル部隊ヲ率テ、戰

鬪ニ從事スルノ已ムヲ得ザルノ難境ニ遭遇セリ、「ブーア」軍苦戰ノ狀況、

推知スルニ餘リアリト謂フベシ、

情況此ノ如キニ拘ラズ、「ブーア」軍ニ於ケル戰鬪正面擴張ノ度ハ頗ブ

ル大ニシテ、獨逸軍ニ於テ間隔稍ヤ大ナル散兵線ヲモ、稀レニ超過セシ  
コアリシモノ、如シ、

「マーゲルスホンタイン」附近ノ戰鬪ニ於ケル、散兵各自ノ間隔ハ、平均  
一米突以下ニシテ、「コーレンゾー」附近ニ在テハ二米突以上、「スピオンス  
コープ」附近ニ於テハ、三米突ニ達セリ、而シテ此際讀者ノ着意スベキハ、  
「ブリア」軍ハ、戰役間常ニ數多ニ分割セラレタル小部隊ヲ以テ戰鬪セシ  
ム、及ビ常ニ防禦ニ不利ナル地形ニ於テ交戦ヲ試ミシト是レナリ例セ  
バ、「スピオンスコープ」ニ於ケルガ如シ、而シテ戰線ノ狀況ヨリ言フトキ  
ハ、「マーゲルスホンタイン」附近ノ戰鬪ニ於ケル散兵線ハ、吾人ノ理解ニ  
從ヘバ、寧ロ濃密ニシテ、他ノ兩所即チ「コーレンゾー」及ビ「スピオンコー  
プ」附近ニ在ツテハ、極メテ稀薄ナリシモノト謂ハザルヲ得ズ、

英杜兩軍ノ兵力、即チ實際戰鬪ニ參與セシ戰鬪員ヲ比較セバ、兩軍ノ

間ニ實ニ驚クベキガ如キ、著シキ懸隔ヲ存セズ、「マーゲルスホンタイン」  
附近ニ於ケル、英杜兩軍兵力ノ割合ハ、一、三ニ對スル一ニシテ、「スピオン  
コープ」附近ニ在リテハ、二、四ニ對スル一、「コーレンゾー」附近ニ於テハ、三、  
ニ對スル一ノ割合ヲ現ハセリ、

予ハ普佛戰役間ニ於テ、一時防禦ノ位置ニ立チタリシ獨逸軍ノ守勢  
働作ヲ以テ、「ブリア」防禦法ニ比較シテ研究スルハ、確カニ興味ヲ有スル  
モノアラント信ズ、然レモ該戰役ニ關シ詳細ニ叙述スルハ、本書ノ目的  
以外ニ至ルヲ以テ、只其一例トシテ尤モ適切ト思意スル、「ゲーメン」附  
近ノ夏陣、及ビ「ウエルデルス」附近「リザイネ」ノ防禦ヲ回想スルニ止メン  
トス、此ノ兩所ニ於ケル獨逸軍ノ戰鬪部隊ハ、獨リ正面ニ於ケルノミナ  
ラズ、亦タ敵ノ兵力ニ對シテ優勢ナラサル兵力ヲ以テ交戦セリ、此際獨  
逸軍ハ良好ナル砲兵ヲ有セシト雖モ、陣地附近ノ地形ハ、無限ノ展望ヲ

有スル高地、及ビ砲火ノ命中効力ヲ逞フスルヲ得ベキ、開轄セル前地ト  
ヲ缺キタリシヲ以テ、砲兵ヲシテ爲メニ、顯著ノ功果ヲ奏スルヲ得セシ  
メザリキ、

四

「ベルロン」及ビ「ベルホルト」ニ於ケル事蹟ヲ以テ、ラヂースミス「ト平  
行線内ニ排列スルモ、尙ホ非難ノ筆撃ヲ免ル、能ハズ、然レドモ、獨逸ノ  
戰鬪働作事實ノ總テニ於テ、「ブーア」軍ノ戰鬪行爲ニ、卓越シアリシコト  
ハ疑ヲ容レザルナリ、只ダ「ブーア」人ハ二三ノ點、詳言スレバ地形ノ利用、  
各個戰鬪ニ於ケル獨立、及ビ正當ナル射撃ノ應用ニ關シテハ、確カニ模  
範的トシテ認ムルノ價值ヲ有セシナリ

「ブーア」  
戰ノ特性

射撃ノ精巧ニ關シテ觀察スル時ハ、「ブーア」軍ノ射撃其者ハ特ニ卓絶  
シアラザリシモノ、如シ、獨逸兵事週報第八號附録、「ブーア」戰記ヲ參照  
スルニ、射撃ノ有効射程内ニ在ル敵ト雖モ、四百乃至五百米突ノ距離ニ

向ツテハ殆ント全ク有効ノ結果ヲ現ハス能ハザリシモノ、如シ、  
之ニ反シテ吾人ガ掩蔽物ヲ利用シ、敵眼ノ暴露ヲ避クルガ如ク、「ブー  
ア」人モ亦タ、掩護力ヲ有スル地形ニ彼ノ身軀ヲ密着セシメ、而シテ出來  
得ル限り、敵彈ヲ遮蔽セサル可ラザルヲ知リ、或ル時ハ速ニ伏姿ヲ行  
ヒ身軀ヲ地面ニ壓着シテ、敵火ノ損害ヲ減ゼントシ、或ル時ハ俄然銃ヲ  
取リテ、警戒不十分ナル敵ニ向ヒ、急射撃ヲ以テ彈丸ヲ集注セシメタリ  
シ働作ニ至リテハ、嘆賞セザルヲ得ザルナリ、

戰場ノ特質、及ビ「ブーア」人ノ職分的生活狀態ハ、彼レノ戰運ヲ實際ニ  
援護シ、且ツ之ヲシテ有利ノ方向ニ指導シタリシモノト謂ハザル可ラ  
ズ以上ノ事實ハ、獨リ精練ナル軍隊ニアラザレバ、實ニ戰鬪ニ適セズト  
ノ意見ヲ、制限セザリシノミナラズ、正當ナル指揮ニ依リテハ、「ブーア」軍  
ニ利益ヲ與ヘ、戰況ノ總テヲシテ有利ニ導キシナラン、二年兵役ノ軍隊

五

ニ在リテハ、教育ニ依リテ完全ノ如何ナル程度ニマデ達セラレ、各戦闘動作上、如何ニ高尚ナル要求ヲ望ムベキハ、平素ニ於ケル演習實施ノ方法如何ニ在リ、孰レノ場合ト雖モ軍ニ於ケル緊要ノ基礎タル歩兵ハ、格外非常ノ勉勵ヲ以テ、射撃演習ニ於ケル大正確、及ビ戦闘動作ニ適スル武器ノ使用ニ對シテ、良好ナル理會ヲ携ヘ來ラシメザル可ラズ、

「ブリア」戰ニ於テ、武器進歩ノ狀況如何ハ、射撃教育ノ完否ニ關係シ、射撃教育完全ナル軍隊ハ、勝算ヲ實際ニ高上スルモノタルノ決定ヲ與ヘタリ、吾人今マ次ノ情報ニ接セシトキ即チモツデル河畔、スピオンコープ附近、及ビ「マーゲルスホントイン」附近ニ於テ、兩軍僅カニ八百米突ヲ相隔テ、對抗シ、戦闘十二時間ノ久シキニ涉リ、勝敗ノ決、尙ホ判明セザリシコトヲ聞知セバ、「ブリア」人モ亦タ英吉利軍隊モ共ニ、射撃ニ於ケル各個教育ノ實施甚ダ不充分ナリシコトヲ察知スルニ定ルベシ、該戰役

間射撃効力ノ顯著ナリシ場合ハ、常ニ兩軍ノ距離五百米突以内ニシテ目標ハ殆ント人高ト同一ニ現出セシ時機ノミナリシナリ、假令ヒ不完全ナル武器ヲ以テスルモ、斯ノ如キ近距離ニ於テス、其効力ノ顯著ナリシハ驚ヲ要セズ

若シ火器ノ効力ヲシテ高度ニ發揚セント欲セバ、射手ハ自己ノ最高能力ヲシテ、射撃ノ精巧ニ價セシムルニ適當シアラザル可ラズ、故ニ射手ハ正確ニ銃ヲ照準シ、遠距離ノ目標ニ對スルモ、亦タ効力アル命中ヲ心算シ得ベキ射撃ヲ施コシ、疲勞甚シキ躍進的前進ニ依リ、損害ヲ冒シテ我が目的ヲ達成センコトヲ努ムル敵ニ對シテ、一步モ其近接ヲ許サザルヲ要ス、フオン、ケンメル將官曰ク「攻者ハ敵ノ陣地ニ近接スルニハ多少ノ躍進ヲ行ハサルヲ得ズ、此際攻者ノ敵眼ニ暴露スルハ、自然ノ状態トス」ト

防禦射擊ノ减小ヲ以テ、敵ノ抵抗力、衰滅セル徵候ナリトノ判定ハ、一  
 タビ攻撃的論難ヲ蒙リシ以來、攻撃實施ニ際シ、攻者ハ前進ヲ中止スル  
 コトナク、只々單ニ僅小部隊ノ掩護射擊ニ依頼シ、間斷ナク攻勢前進ヲ  
 繼續スルコトヲ得ベシトノ意見ハ、大ニ其勢力ヲ減ズルニ至レリ、是ニ  
 於テカ爾後多クノ戰團ニ於テ、火戰ハ專ラ命中ノ確實ヲ以テ戰機ヲ熟  
 セシメ、然ル後チ敵ノ陣地ニ向ツテ、近接働作ノ實行ニ移ルコト、シ、從  
 來屢々實施セラレタル如ク、攪擾的手段ヲ以テ、強ヒテ敵ノ陣地ヲ掠奪  
 セントシ、嚴シク局部ノ轉界ヲ熟セシムルガ如キ手段ヲ廢スルニ至レ  
 リ。

以上ノ理由ヨリシテ、防禦戰ノ經過ハ長時間トナリ、英軍ノ各兵卒ハ  
 各々格闘的動作ヲ以テ勝利ヲ争フニ至レリ、然レドモ亦「ブリア」兵ノ  
 巧妙快速ナル運動、及ビ良好ナル射擊時機ノ撰定トハ、英軍ニ其目的ノ

達成ヲ満足ナラシメズ、「ブリア」兵ノ發スル善良ニ照準セラレ、且ツ確實  
 ナル命中効力ヲ有スル各射擊ハ明カニ敵ニ打撃ヲ與ヘタリ、

故ニ各個教育ノ補助ニ依リ、火器ノ最高命中力ヲ發揚スルニ足ルヘ  
 キ性能ヲ、各兵卒ニ注入接種セザル可ラズ、然ラバ如何ニシテ此ノ目的  
 ヲ達成シ得ル乎、「ゲースト」將軍ハ、千九百〇二年、獨逸兵事週報第四十三  
 號ニ於テ、其方法ニ關スル教示ヲ吾人ニ與ヘタリシト全時ニ、次ニ記載  
 スル論旨ニ反對シツ、特ニ集團射擊論ヲ排斥セリ、

射擊ノ偏避ハ、銃ノ構造距離測量ノ誤差、天候或ハ光明等ニ關シ、多少  
 ノ差アルモノナルニモセヨ、射擊ニ此偏避アルヨリシテ、被彈地界内ト  
 雖モ、必ズ確實ニ命中ヲ期シ得ベキモノニアラザルコト論ヲ待タズ、距  
 離測量器、同測量法、射彈ノ觀測、及ビ目標ノ認識等、進步セル今日ト雖ド  
 モ、然レドモ各兵卒ニ自己ノ携帶スル火器ノ効力ヲ、其尤小部分ニ至ル



マデ發揚シ得ベキ可能ガ否定セラル、場合ニ當リテハ、如何ニ有利ナル補助材料ト雖ドモ其價值ノ大部分ヲ消失セザル可ラサルモノタルコトハ、何人モ沈黙セザルヲ要ス、

「ミীগ」ノ學說

「ミীগ」ノ學說ハ、今ヲ去ル二十五年前ニ於テ、銃ノ効力ニ關スル知識ヲ總括スルタメニ、著シク有益ナル任務ヲ達成セリ、當時ノ試驗ハ、防禦陣地ニ幕様ノ標的ヲ平行ニ設置シ、是ニ對シテ射撃ヲ實施セリ、其結果ハ能ク射撃ノ學理ニ適應シ、其命中百分彈ノ驗知ハ、射撃ニ關スル學理的豐多ノ教示ト、利益トヲ吾人ニ與ヘタリ、ミীগハ射撃ノ散布ヲ顧慮シ命中効力ハ孰レノ場合ト雖ドモ、能ク數理上ノ計算ニ合シ、且ツ孰レノ場合ト雖モ、常ニ同一ナルベキモノタルコトヲ主張スルヲ得タリ、同一ノ照準點同一ノ照尺同一ノ距離及ビ散兵濠ヨリ發射スル射撃部隊ノ人員同一ナル時ハ、右ノ實驗的原則ハ、數回ノ試驗ニ依ツテ、愈々其正

射撃結果ノ謬說

當確實ヲ認ムルニ至レリ、射撃教育ノ改良ニ伴ヒ、自然ニ亦タ次ノ結果ヲ現ハセリ、即チ垂直面(標的)ニ對スル射撃ハ、彈着自カラ狹小ノ群ヲナシテ、標的の面ニ散布シ、水平面(被彈地)ニ對シテモ、亦タ之ニ應シテ彈着自カラ稠密ス、而シテ各場合ニ於テ、距離測量上ノ過失、天候ノ影響ハ、良好ナル射手ト雖モ、亦タ命中成績ヲ不良ナラシム、

距離測量、射撃ノ觀測、天候ノ關係ハ、射撃成績ニ尙ホ大ナル効力ヲ與フベキコトヲ推理スル代リニ、今マ又一種ノ定說ヲ唱フルモノアリ、即チ廣キ射撃ノ散布ハ特ニ有利トシテ表示セラル、コト是ナリ、又同一ノ場合、戰場ニ於ケル不良ノ射撃ハ多方面ノ効果ニ依ツテ特別ノ利益ヲ占有ストノ謬說ガ主張セラル、ニ至レリ、

射撃ノ散布

火器ノ構造如何ニ論ナク、射撃ノ毎回ニ於テ、射撃ノ散布ヲ示ササル

銃ナキハ、何人モ信ジテ疑ハザル所ナリ、然リト雖モ射彈ノ總テハ、彈道ノ中心ノ周圍ニ自カラ群集シ、直接ソノ近傍ニ於テ命中彈ノ核心ヲ成形シ、稀レニ外方、集束彈道内ニ於テ核心ヲ成形スルモノトス、ミィグハ是等ノ幻象ヲ、其著書ノ第四頁ニ於テ説明シテ曰ハク、「彈着點ノ群象、先ヅ標的面ニ對スル中心點ノ周圍ニ標的ノ中心ハ尤モ稠密ニ射彈ノ群集スル部分トス」ニ存スルモノハ銃ノ精度ニ向ツテ一ノ標準ヲ與フルモノトス」ト

此ノ關係ヨリシテ射撃ニ際シ絶ヘズ正當ナル照準點ヲ見出スルコト、詳言スレバ彈道ノ中心ヲシテ標的面上、尤モ有利ナル命中點ニ向ツテ指導スルヲ得バ、則チ射撃ハ尤良ノ結果ヲ達成スルヲ得ルニ至ル、標的若シ共通ノ照尺、及ビ共通ノ照準點ニ依リテ、閉塞セラル、時ハ、尤高ノ命中度ハ、只ダ散兵ノ各個射撃ニノミ依ツテ達セラレ得ルモノトス、

「ライスネル、フォン、リヒテン、ストロイ」少將ハ、千九百〇二年ノ兵事週報ニ於テ、孰レノ時機ニ於テモ乘馬目標ヲ斷念スベキヲ説キ、且ツ次ノ如ク附言セリ曰ハク、「乘馬目標ニ對シ、實確ナル命中ヲ得ル軍隊ハ、世界ニ於ケル、尤良ノ射手ナラン」ト、予ハ此ノ假定文章ヲ想起スルト同時ニ「トルレス、レイベン」(書名)ニテ證明セラレタル「ベルン、ハルデー」ノ叙説ヲ回想ス曰ハク、「實戰ニ在テハ尤正當ナル射撃ハ甚ダ稀レナリ、満足ナル結果ハ、通常充分満足ニ射撃セラレタル時ニ生ズルモノトス」ト、是レ故ニ孰レノ場合ト雖モ、各射手ヲシテ絶ヘズ、尤良ノ成績ヲ達セシメントスルコトハ、實ニ辛フシテ望ミ、得ラル、モノナリ、然レモ命中ヲ不良ナラシムベキ原因、愈々少ケレバ、少キニ從ヒ、平時ノ教育ニ於テモ、既ニ成功ノ水平線下ニ存在スル要求ヲ以テ、自カラ充分ナラシムルコトヲ得ベシ、照準點ヲ自由ニ撰定スルハ、命中ヲ良好ナラシムルニ與ツテ効方アルモ

射撃ノ精  
ニ關スル  
度ニモ  
トケル  
軍ノ判定

訓練

ノトス、

既ニ六十年ニ於テ、フオン、モルトケ將軍ハ、射撃ニ關スル原則ヲ決定セリ曰ハク、『射撃ヲ以テ敵ヲ攻撃スルニハ、改良セラレタル火器ヲ使用シ射撃ノ精度ニ依ツテ達成セラレサル可ラズ』ト、

改良セラレタル火器ハ、其取扱ヒニ關シ、大ニ熟練ヲ要スルノミナラズ、却テ又兵卒個人ノ教育ニ重キヲ措カサル可ラザルハ無論ナリトス、  
『ドラゴミフロ』將軍曰ハク、『完全ナル武器ハ完全ナル兵卒ヲ要ス』ト千古ノ格言ト謂フベシ、

數年以來陸軍ノ兵卒ハ、完全ノ度ニ向ツテ、漸次其勢力ヲ増加シツ、アリ、教育科目ノ増加、要求ノ高上、及ビ服役年限ノ短縮ハ、完全ナル兵卒ヲ養成スル上ニ就ヒテ、間斷ナク困難ヲ構成セリ、兵卒ニ對スル要求此ノ如ク増加スルニ拘ラズ、軍隊ノ教育ニ關シテ、ハ、今日ト雖モ、彼ノ、フリ

『ドリヒ』大王ノ有名ナル訓練及ビ教育ナル格言ヲ服膺實施セザル可ラザルヲハ、各將校ノ明カニ知悉スル所ナラン、然リ而シテ以上兩者ノ兵卒ニ均勢ニ平行兩立スベキハ無限ニ必要ナリ、屢々發現スル現象即チ彼ノ困難ナル科程ノ訓練ヲ以テ、教育ノ恩惠ニ歸スルノ説ノ如キハ、能力ヲ高上スルノ目的ヲ誤解セルモノト謂ハザル可ラズ、軍事的方式及ビ將來教育上ノ確實ナル基礎トシテ見做スヘキ習慣的服從ハ、兵卒ノ體內ニ筋肉及ビ血液ヲ以テ一身ヲ犠牲ニ供セントスル所謂獻身ノ忠節ノ溢ル、ニ非ラザル以上ハ、教育ニ向ツテスル彼ノ理解ハ未熟ナルモノトス、訓練ニ對シ多數ノ要求ヲ増加スル時ハ、是ト同時ニ範圍廣濶ナル意識的教育ヲ施コスヲ必要トスルハ辯ヲ待タザルナリ、然レモ此無形的教育ヲ施コスニハ高度ノ軍紀ヲ保持セシムルタメ、是ト相平行シテ嚴格ニ訓練ヲ實施スルヲ要ス、是ニ依ツテ各兵卒ヲシテ勇氣ヲ發

揚セシメ、時機ニ依リテハ殆ンド放肆ノ境界ニ近接スルヲアルモ、決シテ是レ以上ノ範圍内ニ深入スルノ行爲ナク、自由ノ境遇ニ在ツテ安全ニ行動セシメンコトヲ希望ス、フリードリヒ大王ハ是ニ關シ既ニ一ノ訓戒的金言ヲ吾人ニ與ヘタリ曰ハク、「我が軍隊ニ於ケル軍紀ノ消長ハ、國家ノ榮譽及ビ存亡ノ繫ル所ナリ」ト然レモ「シャルンホルスト」ガ嘗テ勸告セシカ如ク、決シテ極メテ多クヲ要求スルヲ望マズ、兵卒ガ總テノ要求ニ屬應シ得ルノ程度ニ止ムルヲ以テ足レリトセサル可ラズ、世上ニ傳フル所ニ據レバ「シャルンホルスト」ハ兵卒ノ程度ヲ進メ、首長ガ直接兵卒其者ニ向ツテ命令ヲ與ヘ得ル如ク、換言スレバ、兵卒ヲシテ先ツ一般ノ指揮官ト同程度マデ進歩セシメンコトヲ勸告セシモノ、如シ、時勢ノ進歩ニ伴ヒ今日ニ在リテハ、之ヲ昔日ニ比スレバ、大ニ一般ノ教育方針ヲ擴張セザル可ラザルナラン、故ニ專ラ軍事的ノ本質ニ非ラザル勤

射撃演習ニ關スル露國ノ定説

務課程ヲ局限スルコト、或ハ又他ノ方法ニ依ツテ、之ヲ單純ニスルコトヲ得ルヤ否ヤニ就テハ、只タ好機會ヲ待ツテ之ヲ説明スルヲ得ベシ、如何トナレバ、緊張的戰闘教育ハ、又時間ヲ消費スルコト一層大ナラザル可ラザルヲ以テナリ、最近我獨逸軍ニ於ケル射撃演習ハ、嘗テ豫想セザル進歩ヲ來タシ、且ツ戰場ニ於ケル武器ノ使用ニ對シテハ、卓越セル結果ヲ得ルニ至レリ、而シテ是ヨリ以上ノ要求ヲ高メントセバ、時間ト勞力、及ヒ實際ノ利用トノ間ニ、一ノ不權衡ヲ生ズベキコトハ容易ニ認メ得ヘキ事情トス、近來露國ハ、射撃演習ヲ過度ノ回數ニ依ツテ實施シ、全力ヲ傾注シテ射撃ノ熟達ヲ圖ラントスルノ方針ヲ取リタルモノ、如シ、若シ夫レ此ノ方針ニ從テ、射撃演習ヲ實施シ、幸ニ射撃ヲシテ射撃演習以外ノ各勤務課目ノ價值ノ上ニ超然タラシメ得ルトスルモ、堪能有爲ノ軍隊ハ、各

專權的價值ノ或ルモノヲ射撃演習ニ歸セシムルノ果シテ正當ナルヤ否ヤハ吾人ノ大ニ疑フ所ナリ標的上ニ於ケル効力即チ命中ノ良否ハ、銃其モノ、能力ニ比較セラレザル可ラズ然レモ射撃演習ヲシテ無限ノ高度ニ變性セシメ是ニ依ツテ平時ニ於ケル射撃演習ノ目的換言スレバ戰鬪目的ニ適スル武器使用ノ豫行演習タルヲ忘失セシメサルヲ緊要トス、

## 照準裝置

假令ヒ照準裝置ヲ改良スルモ或ル程度ヲ越ヘテ命中効力ヲ益々高上スルコトハ達セラレ能ハザリシト雖モ然レモ從來ノ照準法ハ射撃ノ精度ニ向ツテ不充分ナリシコトハ照準裝置ノ改良ニ因リテ確實ニ認定セラレタリ照準上ノ缺點即チ滿星蝕星及ヒ照星ノ壓縮ニ關係シテ生ズル所ノ缺點ノ説明中ニモ照準器ノ構造如何ニ依リ此缺點ヲ技術的ニ輕減スルニ換ヘテ技藝熟練ナル射手ニ依リ照星及ヒ照尺ノ適合ニ

ヨツテ達セラレヲ得トアリ然レモ又射手ガ彈道ノ各種狀態ニ依リ各距離上ニ於テ探求スベキ照準點ヲ見出セザルヲ顧慮スルコトナク百米突ノ距離ヲ有スル照尺ハ百米突是ニ關聯シテ五十米突ノ距離ヲ有スル照尺ハ五十米突ト計算スルノ不便アルヲ免レズ照準點其者ハ平均米突數即チ距離ニ對シテ一モ利益ヲ與フルコトナク只ダ何レノ時如何ナル時機ニ於テ黑點ヲ射撃スルカ及ビ他ノ照尺ニ變移セバ如何ナル高度ノ差異ガ發生スルカヲ了知スルニ止マルノミ中距離ニ於ケル照準點ヲ絶ヘズ知得シアルハ各人ノタメ一時ノ記憶法ノ補助方便タルニ過キズ若シ夫レ可ナリ同一ナル高サヲ有スル彈道ヲシテ漸次黑點ニ近接セシムル如ク射撃スル時ハ實際ニ於テ命中公算ヲ大ナラシムルナラン、

フオン、リンデナウ中佐ノ意見ニ據リテ見ル時ハ現時獨逸軍隊ニ於

テ使用シツ、アル、小銃ノ照準器ヲ以テスル時ハ、頭的ニ對シ、一千米突ニ至ル迄ノ距離ニ於テ、五分間以内ニ、敵ノ「二十五」乃至「三十五」プロセントヲ射殺スルヲ得ベシト、且ツ又千九百〇二年獨逸兵事週報附錄第八號ノ報スル所ニ據レバ、「ブーア」戰ニ於テハ殆ント到處二千米突ノ距離ニ至ルマデハ、各射彈ヲ觀測スルヲ得、而シテ彈着不正ノ場合ニ在リテハ、技術的ノ照尺改良ヨリ補助セラレ、射撃ノ修正ニ依リテ命中成績ヲ良好ナラシメ、從來各戰役ニ於テ現ハレタリシ射撃ノ結果ヲ凌駕シ得タリ」ト、

## 眼ノ慣練

距離目測ニ慣練スルハ、射撃ノ命中ヲ多大ナラシムル上ニ就ヒテ、緊要ナルハ論ヲ待タズト雖モ、然レモ此ノ目的ハ各種ノ場合ニ向ツテ、必ス成功ヲ期シ得ヘキモノニアラズ、若シ夫レ射手ノ眼力、野外ニ於ケル通視ニ慣練セズ、實際ノ價值ヲ保證シ得ザル場合ニ於テ然リトス、フオ

ン、リンデナウ「中佐ハ、眼目ノ慣練シアルハ理論上、高度ノ價值ヲ有スルモノナルコトヲ唱ヘ、而シテ此演習ヲシテ良好ノ結果ヲ奏セシメシニハ、最モ多數ノ人員ヨリ成リ立チタル繼續的演習ニ因リテ、卓越ナル結果ヲ成功シ、得ヘキヲ證論セリ、

總テ他ノ演習ト同シク此演習モ亦タ、教育上漸次其程度ヲ進メテ是ガ發達進步ヲ計ルヲ要ス、是レガ手段トシテ先ツ肝要ナルハ、進歩ノ度ニ應シ、漸次其距離ヲ遠大ニシ、戰鬪目標ヲ通視セシムルニ在リ、彼ノ射撃演習ノ如キニ在リテハ、命中ノ精粗ヲ點檢セシガタメ、標的ノ設置ヲ必要トスト雖モ、本演習ハ其目的單ニ眼目ヲ野外ノ物躰ニ慣ラスニ在ルヲ以テ、規正ナル標的ノ設置ヲ要スルコトナシ、是レカ爲メ却テ射撃演習ノ時機ヲ利用スルハ有利ナラズ、只タ射手ニ想定上目標ノ現出トシテ、野外ノ物躰ニ視線ヲ注グヲ慣セバ可ナリ、然レモ此現出目標ハ、

射撃演習ニ用ユル、人像的ノ如キモノヲ以テスルモ尙ホ可ナリトス、且ツ其目標タラシムベキ標的ノ中央ニ射撃教令第二十二頁ノ要旨ニ從ヒ、粗略ニ命中點ヲ畫シ、最モ良好ナル命中點ハ、標的ノ中央ニ在ルヲ射手ニ表示スルハ、大ニ利益アル方法ナラン、七百米突ノ距離ニ至ルマデハ、屢々圈頭的ヲ使用シ、是ニ依ツテ標的面上ニ畫セラレタル、十一個ノ普通ノ圈線ヲモ通視セシム、大距離ニ向テスル眼目慣練ニ在ツテハ、管ダニ歩兵的ノミヲ用ユルニ止ムルヲナク、却テ又乘馬及砲兵的等ハ希望スル所ノ目標物躰タルモノナリ、

以上ノ方法ニ依リ距離測量ノ準備演習ハ、射撃演習ノ時機ヲ利用シテ實施セラレ、而シテ距離測量法ノ特別教育ハ、通視困難ナル地形ニ於テ施行スルハ効力大ナルコト無論ナリ、獨逸ニ於テハ透明稀薄ナル空氣、及ビ亞弗利加的ノ晴朗ナル天空、並ビニ最モ僅少ナル色ノ變化モ、容

ニ認識スル所ノ自然ヲ欠ク、故ニ我本國(原著者ノ本國)ニ於テスルト、亞弗利加ニ於テスルトハ、距離目測上多少ノ變異アルヲ免レズ、

眼目既ニ普通ノ狀況ニ於テ、各射撃距離ニ現存スル、戰鬥目標ニ對スル測量ニ練熟スルニ至ラバ、更ニ進ンデ天候及光明ノ關係等ヨリシテ發生スル、ソノ變化ヲ認識スルヲ學習セシメ、而シテ是等ノ變化セル現象ヲ我地形ノ雜色ナル物象内ニ於テ、迅速ニ發見スルヲ練習セシメザル可カラズ、兵卒ニ此演習ヲ教育スルニ當リテハ、戰鬥動作未ダ完全セザルモ、射撃演習ニハ既ニ素養アル射手トシテ地形演習ヲ準備ス、吾人今、ブリア戰鬪法ノ特性ヲ深く探究セバ、茲ニ吾人ノ戰鬪法トハ全ク相異セルモノアルヲ發見ス、南亞戰ニ在リテハ、ソノ戰鬪線不規則ニシテ、地形蔭蔽セバ蔭蔽スルニ從ツテ、益々兵力ヲ數多ノ小群ニ分割セリ、蓋シ、ブリア軍ガ此ノ如キ處置ヲ取リシ所以ノモノハ、攻者ヲシテ

自然兵力ノ分割ヲ餘儀ナカラシメ、是ニ依ツテ敵ノ攻撃勢力ヲ薄弱ナラシムルト同時ニ、ブリア軍ヨリスル攻撃ニ對シ、ソノ抵抗力ヲ弱カラシメントスルヲ以テ、其最高目的トセシハ事實ノ自カラ明カニスル所ナリ、是レガタメ、ブリア軍ハ、散兵ヲ數多ノ射撃群ニ區分シ、不規則ナル散兵線ヲ成形シ、屢々不正ノ目標ヲ呈シ、一種異様ノ形狀ヲ與ヘテ、地上ニ強固術ヲ施ス等、勉メテ攻者ノ射撃効力ヲシテ困難ナル狀況ノ前ニ据ヘシメタリ、

敵眼ニ對  
スル警戒

「ブリア軍ハ確實ナル物質的ノ掩護ニ依リテ、自己ノ身軀ヲ敵眼ニ曝露セシメザル」即チ敵眼ニ對スル掩護ニ就テ、卓越ニ理解シアリシモノト認メザル可ラズ、ブリア人ノ平カナル軍帽、其服色、及ビ彼ノ實際的ニ且ツ輕便ナル武裝ハ、實ニ充分ナル利益ヲ有セルモノトシテ賞讃セラル、所ナリ、之レニ反シテ英國軍隊ハ遠距離ニ在ルモ、既ニ明カニ認

武裝

識シ得ラルベキ軍帽ヲ冠セシニアラズヤ、是レ亦タ英軍ニ不利ノ戰鬥ヲ多カラシメシ一因ナリトス、

武裝ノ良否ハ、戰術上ニ映響スルコト上ノ如ク夫レ大ナリ、獨逸軍自身ニ於テモ、尙ホ平時ノ演習ニ於テ兜ヲ冠セリ、兜ノ制式ハ屢々戰鬥ニ於テ著シク敵眼ニ觸レ易シ、故ニ予(原著者)ハ兜尖(突出部)ヲ隨意ニ除去シ得ル如ク構造ヲ改良セバ稍ヤ可ナランカナレトモ、兜其物ノ形狀ヨリ考フレバ、敵ノ射撃目標タルハ免レ能ハザルベシ、

殆ンド、先天的トシテ認ムベキ、ブリア兵ノ習慣動作ヲ模擬スルハ、歐羅巴人等ノ到底不可能事トス、實際、ブリア兵ハ地上ニ自己ノ全軀ヲ壓迫シ、匍匐運動ヲ以テ敵眼ニ曝露スルヲ減少セリ、然レドモ歐羅巴兵ト雖モ只ダーノ模擬シ得ヘキ點アリ、即チ射手ヲシテ可成頭ヲ低下セシムルコト是ナリ、然レドモ背囊及ヒ各自ノ携帶スル炊具並ニ之ニ相應



シテ敵ニ良好ナル照準點ヲ與フルコト等ハ到底殆ント避クル可ラザル事項ナラン、構造良好、視力精密ナル望遠鏡ノ發明アル今日ニ際シテハ、彈藥囊ノ後方、背囊下部ニ附着シテ携帶スル炊具ノ如キハ、敵ニ目標ノ發見ヲ迅速容易ナラシムル上ニ就ヒテ、便利ヲ與フルモノト見做サザルヲ得ズ、

外套ハ冬季嚴寒時ヲ除ク外、使用スルコト殆ンド稀ナリ、故ニ戰時ニ於テ氣候是ヲ許ルシ、且ツ成シ得レバ之ヲ大行李ニ積載スルカ、又ハ他ノ車輛ヲ以テ運搬セシムルノ方法ヲ講スルヲ要ス、平時ノ演習ニ於テハ之ヲ携帶スルコトナク、兵營ニ殘留セシムルモ、著シク不便ヲ感スル勿ルベシ、

南亞戰ニ於テ世人一般ヨリ賞讃セラレタルハ、土色ヲ帶ビタル彼ノブリア兵ノ服裝ニシテ、此ノ服色ハ戰術上頗ブル有利ナリシモノ、如

シ、歌羅巴軍隊殊ニ英國軍ノ制服トシテ着用シツ、アル被服ノ如キハ、其色合ヨリ云フモ、亦タ其地質ヨリ見ルモ、共ニ軍事上ノ眼目ヲ喜バシメ得ザルモノニシテ、予ハ特別ノ場合ニ於ケル使用サヘモ、餘リ同意スルヲ得ズ、然レドモ英國ニ於テ、何故ニ戰役ハ當時、此ノ如キ服裝ガ、現時ニ於ケル軍服ト相並ンデ野外的服裝トシテ、兩立シ得ザリシヤニ關シテハ、甚タ怪シマザルヲ得ズ、人若シ現今ノ戰鬪演習ニ在リテハ、被服ノ保存、及其修理補給等甚タ困難ナルコト、及ビ經濟上ノ原則ヨリ打算セラレ、數年來既ニ軍事上ノ一問題タリシ保存期限ヲ決定スベキコトヲ顧慮セバ、何故ニ英國ハ此時機ヲ利用シ、此ノ經驗ヲ實施セザリシヤ、英國ハ單簡ニシテ而カモ抵抗力アル、彼ノ土色ノ被服ヲ多額ノ經費ヲ要スルコトナク、製造スルコト能ハサリシカニ就ヒテハ、英國自カラニ於テモ種々ノ議論ヲ惹起セリ、斯種ノ被服ハ武器ヲ使用シ、戰鬪働作ヲ演

散兵の獨立

ズルノ時機ニ於テ使用セシムベキハ勿論ナリトス然レドモ此服裝ハ今日ノ教育上ノ要求ニ際シ董ニ不良ノ天候ニ晒シザル可ラザルベシ、乃チ傳令服ノ如キハ高度ニ愛情スルノ必要ヲ生ズ、若シ「ブーア」兵個人ノ獨立力ニ就テ觀察ヲ下ダス時ハ、放肆トモ許スベキ如キ「ブーア」戰鬪法ノ不規律ハ、獨立力ノ範圍内ニ總括セラル、モノナラザルコトヲ忘却セザルヲ要ス、散兵ハ只ダ戰鬪ニ於テ遭遇スル働作ノ自由ヲ許スベキ、狭少ナル範圍内ニ於テノミ、自己ノ武器ノ優勢ヲ以テ生地ニ於ケル實際的勤務ノ下ニ自カラ働作スルヲ要ス、

下級指揮官、特ニ自己ノ射擊群ヲ指揮スヘキ小隊長ハ、昔時ニ異リ今日ハ一層嚴密ニ部下ヲ統御シ、且ツ是ニ留意セザルヘカラス、將校ハ自己ノ能力ニ依ツテ地形ノ利用ヲ正當ニシ、良好ノ視察ニ依ツテ目標ヲ認識シ、確實ニ距離ヲ測定シ、目標ノ指示ヲ明カニシ、銃火ヲ至當ニ分割

小隊長

指揮官ノ威信

シ、將撃開始ヲ號令シ、隣接部隊トノ共同働作ヲ正確ニシ、而シテ自己ノ働作ヲ以テ、指揮官ノ意志ニ適合セシメサルヘカラス、將校ノ働作、能ク以上ノ要求ヲ充タスニ足り、且ツ確實ニ自己ノ指揮權能ヲ掌握スルヲ得バ、部下ノ信任ヲ得ル確然タリ、

此信任ナルモノハ「フリッツ」ヘ「ニヒ」ノ所謂「心ノ軍紀」ト命名セシモノニシテ、部下ヲ剛勇ニ導クモノトス、防禦ニ在リテ部下ガ常ニ銃口ニ敵ノ近接スルニ至ルマデ泰然自若トシテ、指揮官ノ號令ヲ待ツガ如キハ、皆テ部下ノ信任アルニ因ルモノナリ、

「マルモンツ」將軍ノ佛軍敗亡ニ關スル説明(即チ佛軍敗亡ノ原因ハ、軍隊ニ信任ノ消滅セルニ起因スルトノ所論)ハ、此ノ關係ニ於テ吾人ニ甚ク利益多キ教訓ヲ與フ、要スルニ「夏ノ夜ノ夢」ノ著者ガ、此ノ事實ヲ洞觀セシガ如ク、佛軍ノ敗亡ハ實ニ悲觀ト謂ハザル可ラズ、然レモ「メツケル」

氏ハ現時ノ獨逸ヲ以テ佛軍ト同一狀態ニ在リト論難セリ、未來ニ於テ益々多ク發起スヘキ戰爭ニ當リ、我獨逸兵卒ノ堪能ハ、事實能ク軍ノ共有財産トシテ認ムルヲ得ヘキヤ否ヤノ疑問ハ、著者ガ屢々其著書ニ於テ發言セシ所ニシテ、勇者ハ少ク怯者多シトノ奇異ノ諫告ヲ絶叫セリ、然レドモ此ノ如キ怨世觀ハ、卓越ナル軍隊ノ勇氣ニ依リ、前世紀ノ四大戰役ニ於テ、深キ沈沒ヨリ大帝國ノ新建立ニマデ勃興セシ、獨逸帝國ノ如キ武裝的國民ニ向テ冠セシムベキ至當ノ言ニ非ラザルナリ、北清事變ニ於テスラ、チーントジン附近ニ於ケル獨逸軍隊ノ勇氣ハ、露國ノストツセル將官ニ依リテ、北京占領ニ際シテハ、英國海軍大將、シイモリア氏ニ依リ、ペイタンノ要塞戰ハ、露西亞ノアレキシーフ將軍ニ依リテ、高度ニ賞讚セラレ、又、タークノ前ニ於テ軍艦イルチス號ノ勇敢ナル働作ハ、歐亞各國民ノ嘆聲ヲ活潑ナラシメタルニ非ラスヤ、

「ブリア」兵ノ個人的動作

之ヲ要スルニ職務ニ忠實ナルコト、及ビ堪能ナルコト、此ノ兩者ハ實ニ獨逸軍固有ノ特色ニシテ、事ノ何タルヲ問ハズ、以上二個ノ證明ヲ獨逸兵士ヨリ奪ヒ去ル能ハザルナリ、然レドモ南亞戰ノ事蹟ニ就テ觀察セバ、「ブリア」兵及ビ英吉利兵共ニ、各々自己ノ職責ニ應ジ、出來得ル限リノ働作ヲ爲セシコトハ、確カニ世人ノ認識スル所ナリ、敵彈ノ命中効力ヲシテ過度ニ減少セシメ、戰術上有利ノ結果ヲ收得セシ、「ブリア」兵ノ匍匐働作ハ、快速ナル戰闘行爲ノ好模範タルニ耻ヂズ、然レトモ亦タ一方ヨリ考フル時ハ、此働作ハ何レノ場合ト雖モ、効力ヲ奏シ得ベキヤ否ヤニ就テハ未タ何等ノ斷定ヲモ下タス能ハザルナリ、要スルニ此働作ハ、戰闘場裡ニ於ケル一種ノ方便トシテ、實際有利ノ働作タルハ疑ヲ容レズ、各小射擊群(約十五名)ガ一齊ニスノ如キ働作ヲ實行シ、個人各個ニ敵方ノ視察ヲ擔任セシメバ可ナラント數々唱導セラ

レタリシ意見ハ、南亞戰役間、ブリア兵ニ依リテ、自然實地ニ經驗セラレ、散兵働作カ阻碍ヲ蒙ルヤ否ヤ、射撃群ノ指揮ヲ間斷ナク繼續スルニハ、如何ニセバ可ナルヤノ原則ヲ評定シ、是レガ證明ヲ與ヘタリ、其他ニ於ケル戰鬪指揮ニ關シテハ、吾人ノ認メテ以テ規則正シキ且ツ有利ナル實行法トシテ評スベキモノヲ見ズ、畢竟スルニ、ブリア軍ハ數理上弱勢ナリシタメ、自然ニ反シ非常ノ困難ニ遭遇シ、爲メニ不規律ナル射撃軍ヲ成形セシハ、辯ヲ待タズ、情況此ノ如キニ拘ラズ、此兵力區分法ハ、我カ同一ノ間隔ヲ存シテ成形セラレタル散兵線ニ對向シテ、優先權ヲ得ズトノ批評ヲ挑揆セシ有利ノ事象ヲ發見セリ、

## 散兵ノ間隔

散兵線内ニ於テ絶ヘズ發生シ易キハ、壓迫トス、而シテ此壓迫ナルモノハ、各伍間ニ存スル間隔ノ不平均ナル増減ニ依リテ起ルモノニシテ、散兵線ニ於ケル射撃ノ指揮、連繫、及ビ下級指揮官ノ勢力ヲ益々困難ナ

ラシムル所ノ不規則ニマデ誘導スル、一種止ヲ得ザル状態トス、之ニ反シテ我カ操典ニ於テ實行ヲ許ルス所ノ間隔ヲ超過セザル分隊毎ノ區分法ハ、隣接隊間ニ大間隔ヲ存スルヲ以テ、此區分法ハ、連繫上ノ強固ナル關節ヲ成形シ、射撃部隊ヲシテ確實ニ指揮官ノ掌裡ニ歸セシメ、且ツ我カ射撃ヲ以テ併列部隊ニ危難ヲ及ホス等ノコトナク、地形ノ利用ヲ有利ナラシムルヲ得ベシ、

## ブリアノ戰鬪軍

ブリア軍ノ撰擇セシ守勢的戰鬪隊形ハ、歐洲數百萬ノ軍隊ニ向ツテ非常ニ有利ナル應用ヲ與ヘザリシハ、論ヲ要セズ、ブリア兵ノ働作ハ、只タ一時ノ結果ヲ以テ自カラ満足シ、而シテ大戰ノ他部分上ニ於ケル快速ナル計畫ニ依ツテ、局部ノ不利ヲ補償セントセリ、評言スレバ、ブリアノ戰鬪法ハ、寧ロ小戰鬪ノ性質ニ偏倚セシモノノ如シ、然レドモ南亞弗利加ニハ、一種ノ戰鬪法アリ、即チ部隊ヲ數多ノ小射撃群ニ區分シテ戰

闘セシメ、又必要ニ應シテハ是等ノ小射擊群ハ再ビ自カラ閉收セシメ、獨立シテ戰闘ニ從事スルコト是ナリ、是ヲ我歐洲ノ大戰組織ニ比較スルニ、大小縣隔ノ差異コソアレ、其意義ニ至リテハ同一ナリト謂フモ不可ナキナリ、

既ニ「リュストウ」ハ各地ノ會戰ニ於テ統計的ニ小戰闘ヲ觀察シテ曰ク、「小戰闘ハ一部ハ一地域内ニ於テ併發シ、一部ハ一時期内ニ於テ繼發的ニ生ズト」又尙ホ次ノ如ク謂ヘリ、曰ハリ

「内部ニ一ノ連絡ヲモ有セザル小戰闘ハ、又一ノ會戰ヲ生ズルコトナシ、然レドモ主目的ヲ達スルタメ、從屬的ニ相連絡シアル時ハ、是ヨリ會戰ヲ發生スト」

以上ノ理由ヨリシテ、「ブーア」戰闘群ノ一層大ナル守勢戰闘ハ、事實射擊ニ依テ相互ニ連絡ヲ保持シタリキ、實際守勢戰ナルモノハ、自己ノ占有

ニ係ハル陣地ニ在ツテ、時トシテハ豫備隊ノ薄弱ナル掩護ヲ補償スルヲ得、

「フオン、ミュリヒチング」將官曰ハク、戰闘正面數哩ニ擴張スル場合ニ在リテハ、模型的會戰地域内ト雖モ、其間戰術上ノ疑問ニ屬スル數多ノ局地ヲ包含スト、此適中の發言ニ關シテ「ブーア」兵ハ亦タ吾人ガ先見的ニ未來ノ戰場ニ於テ拒絕スルナランガ如キ取り除ケノ場合ヲ積算セリ、只タ自然ニ突起セル高地ニシテ、彼ノ甚シク險峻ナラザル山地ニ在リテハ、火力ノ達スル限り各方面ニ對シテ、掩護射擊ノ交互關聯ヲ許スヲ得、

「リュストウ」氏ノ謂ヘルガ如ク、地區毎ニ小戰闘ノ併發スル場合ニ於テハ、會戰ハ自然分離ノ狀況ヲ呈シ、而シテ各戰場毎ニ特別ノ兵力ヲ以テ占領セシムルヲ要シ、且ツ地區ノ區分ニ依リテ主目的ヲ達成スルタ

## 翼側準備

メニ從屬的ニ共同働作シ得ル如ク配備セサル可ラサルノ不利ヲ有ス、  
「フォンリンデナウ」中佐ノ意見ニ從ヘバ、「假令此ノ目的ヲシテ達成スル  
ヲ得ルト云ヘル然レモ是レガ爲メニハ一部ノ兵力ヲ以テ比較的廣大  
ニ正面ヲ守備セシメ、而シテ其主力ヲ以テ側面運動ヲ行ハサル可カラ  
ズ、從ツテ兵力ノ優勢ナルヲ要スルモノトス」ト

「メツケル」少將ガ嘗テ極メテ正當ニ説述セシ如ク、凡ソ守勢ノ位置ヲ  
立ツモノハ、勢ヒ側面ノ警戒ニ特別ノ價值ヲ置キ、背後ニ密集部隊ヲ貯  
ヘサル可ラズ、然レモ戰鬥正面ノ後方ニ部隊ヲ縱長ニ配備スルコトハ、戰  
術上ノ原則トシテ絶對的ニ賞讃スルヲ得ズ、假令ハ此處置ノ總テガ、全  
ク確實ニ賞讃スベキ價值ヲ現ハス時ニ於テモ然リトス、

「ブーア」軍ハ自己ノ側面ニ向ツテ運動スル敵ニ對シ、却ツテ我ヨリ其  
側面ヲ脅威セシムル目的ヲ以テ、現ニ我後方遠距離ノ地點ニ一小部隊

ヲ位置セシメ、以テ側面ヲ掩護セシメタリ、地形若シ之ヲ許ルス場合ニ  
在リテハ、此處置ハ極メテ有利ニシテ、且ツ軍隊兵力ニ比シ不權衡ニ成  
立ヌル、過廣ノ正面ヲ取ラザル可カラザル守勢戰ニ於テ應用スルヲ得  
ベシ、一回撰定シタル地形ニ於テ強ヒテ防禦セントセバ、多少拘束ヲ免  
レズ、夫レ此種ノ戰鬥ニ在リテハ、守者ノ防禦方法ハ大部分敵ノ働作ニ  
從屬セザル可ラザレバナリ、夫レ故ニ此ノ如キ防禦ニ際シテハ、有力ナ  
ル翼豫備ヲ貯ヘ、主トシテ本來ノ射擊正面ニ對スル攻勢的或ハ守勢的  
側方ニ位置セシムベシ、地形若シ攻者ノ側方ニ向ツテ翼ノ包圍運動ヲ  
許ルス時ニ於テ殊ニ然リトス、

然レモ防者ハ一定ニ限界セラレタル地區内ニ在ツテ獨立シテ戰鬥  
シ得ベキ部隊ヲ縱長ニ配置シ、且ツ各部隊ヲシテ連繫ヲ失ハシメザル  
カ如クセザル可カラス、而シテ防者ハ戰鬥地區内ニ於テ生スル虛隙ヲ

## 攻勢守勢

利用スルヲ忘ル可ラス、虛隙ハ前方ニ在ツテハ前進陣地、後方ニ在リテハ豫備隊ノ位置ニ利用スルヲ是ナリ、然リ而シテ攻者若シ優勢ノ兵力ヲ以テ防者ノ翼ヲ包圍セント計畫スル場合ニ在リテハ、其兵力、防者ニ比シ遙カニ優勢ヲ占メザル可カラス、然ラザレハ敵翼包圍ノ目的ヲ以テ差遣セシ我が部隊、未タ敵翼ニ包圍セザルカ、若シクハ之ニ近接スルモ未タ其占領ヲ終ラザル間ニ、防者ハ我が正面ニ向ツテ逆襲ニ轉ズルコアルヲ以テテリ、

以上掲ゲ來リシ觀察ハ、未來ノ戰鬪動作、及ビ是ニ必要ナル戰鬪隊形ニ就テ説明スベキ目的ニ外ナラザルコトノ誤解ナカラシムヲ欲ス、斯ノ如キ問題ハ、只ダ眞面目ノ場合ノミ之ヲ解釋スルヲ得、ナボレオンハ此ノ問題ニ對シ、單簡ニシテ且ツ有効ナル注意的説明ヲ與ヘ吾人ニ警告スラク、

「戰鬪動作ニ關シテハ一々是ガ手段方法ヲ教示ズル能ハズ、否ナ是ヲ教示スルヲ以テ却テ不可トナス、處置ニ就テ與ヘラル、教示ハ、是ヲ應用シテ利益ヲ生ゼシヨリハ、寧ロ常ニ弊害ヲ醸スル多キモノナリ」ト、

## 第二、攻撃

非常ニ地形ノ困難ナリシ源因ヨリシテ、自然英吉利軍ガ南亞ノ狀況ニ適當セリト思意シタリシ戰鬪法ハ、只タ彼ノ實施セシ慘憺タル實驗ヲ認知スルヲ得セシメタルノミ、是ニ由リ千八百六十六年、千八百七十年及全七十年ノ二大戦役ニ於テ、至當ノ戰鬪法ヲ了解シ、數倍以上ノ膨脹ヲ現ハセシ、獨逸軍隊ト比較スルガ如キハ正當ノ論ニアラズ、否ナ比較スル能ハザルナリ、獨逸軍隊ノ教育法、將校團ノ狀態、國民全般ノ兵

役義務及ビ嚴格ナル軍紀等ハ、嘗ダニ迅速ナル理解ヲ許セシノミナラズ、却テ亦タ新タニ發生スル野外勤務ノ要求ニ、勢力アル實行ヲ承認セリ。

之レニ反シ南亞戰間、英國ガ其初メテ攻勢戰闘ニ從事セシメシ軍隊ハ、ブロンサルドガ引認セシ第一階級ノ埋葬ヲ避クルヲ得ザリシトノ認定ヲ、制限スル能ハザリシト云フモ、不可ナカルベシ。

然レモ英吉利軍隊ノ状態ヲ觀察セバ、其個體的分子タル兵卒ハ、教育不完全ニシテ軍紀不充分ナル一種ノ雇兵ナリシヲ以テ、到底獨逸式演習法ノ模倣ヲ要求シ得ザルノミナラズ、却テ又是等ノ兵卒ニ向ツテハ、獨立的戰闘法ヲ要求スル能ハス、且ツ又之ニ依信ス可ラザルモノタリシコトハ、世人ノ明カニ知了セル所ナラン、是ニ由リテ見レバ、南亞ニ於テ採用セラレタル戰術ハ、只タ特種ノ英吉利法ト命名セラルヘキモノ

## 射撃ノ優勢

ニシテ、獨逸式ト日ヲ同フシテ語り得ベキモノニ非ザルナリ。

敵ノ陣地ニ向フテ射撃ヲ集注シ、敵火ヲ沈黙セシムルヲ得タル時ハ、即チ我が射撃力ノ敵ニ優レルノ徵候トス、然ル時ハ我が密集部隊ハ損害ヲ受クルコトナク、敵ノ有効射撃界内ニ於テ運動スルヲ得ベシトハ、從來世人ノ信用セシ所ナリ、然ルニ英吉利軍ノ經驗セシ働作ハ、此ノ意見ヲ根本的ニ論駁セリ、英吉利軍ガ受ケタル至大ノ損害並ニ攻勢移轉ニ際シ、散兵線ノ逆襲ハ、專ラ此時機ニ於テ發生セシ出來事ニシテ、英軍ハ此時機ニ至リ、始メテ實際ニ敵ノ兵力ヲ探知スルヲ得タリシナリ、獨逸國ニ在テハ、平時ノ演習ニ於テ時々以上ノ如キ不意ノ情況ニ遭遇セシメ、以テ各人ヲシテ此ノ場合ニ應スル處置ノ研究ヲ承認セリ、加之獨逸操典ハ屢々簡單ナル言辭ヲ以テ、吾人ニ此ノ如キ場合、即チ英吉利軍ガ全滅ノ不幸ニ陥リシガ如キ眞面目ノ情況ニ際シ、此ノ如キ不利



ノ結果ヲ豫防シ得ベキ緊要ナル方法ヲ教示セリ、  
 操典第二部ノ各項ヲ参照スレバ左ノ如シ、  
 第二十二項、掩撃ヲ警戒スル爲メニハ、確實ニ所要ノ方向内ニ於テ微  
 弱ノ散兵線ヲ展開スベシ、  
 第十九項、散兵群ハ歩兵ノ主要ナル戰鬥隊形トス、  
 第三十項、射撃効力ヲシテ大ナラシメンニハ、各人ノ沈着、射撃ノ熟練  
 及嚴正ナル射撃軍紀ヲ必要トス、  
 第三十七項、彈藥ノ節約ハ避ク可ラザル要件ナリ、  
 第三十三項、良好ナル軍隊ハ、敵火ノ下ニ在ルモ應射スルコトナク、射  
 撃時期ヲ待タザル可ラス、  
 第十四項、大ナル密集部隊ハ、敵ノ歩兵ノ有効ナル射撃界内ニ在リテ  
 ハ、假令停止時間尤モ僅少ナルモト雖モ、非常ニ著シキ損害ヲ蒙ルモ

ノトス、

以上掲ケシ所ノ各條項ハ實ニ有益ナル教示ニシテ、吾人は等ノ諸條  
 項ヲ全躰ニ於テ服膺セバ、吾人ハ確實ナル門戸ヲ通過シテ愈々安全ナ  
 ル室内ニ進入スルヲ得ベシ、然レモ是等ノ教訓的言詞ノ中ニ含まレタ  
 ル事項ハ、専ラ平時ノ狀況ニ向ツテ計算セラレタルモノニシテ、而シテ  
 練兵場ノ教育ハ、尤モ嚴正ニ實施セラレサル可ラザルノ決定ヲ與フル  
 モノナリ、

南亞戰ノ事蹟ヲ全般ニ觀察スルモ、英軍ハ南亞ノ地形ニ於テ攻撃  
 動作上全ク特別ノ困難ヲ感ゼシト全時ニ他ノ方面ニ於テハ、防者即チ  
 プーア軍ハ終始殆ント受働的防禦ニ依リテ敵ノ攻撃ニ對シ完全ナル  
 自由ヲ以テ運動スルノ利益ヲ獲得セリ、火戰以外ニ於ケル利益ノ一ト  
 シテ見ルヘキモノハ、優勢ナル敵ノ乘馬歩兵ニ對シ、軍ノ運動ヲ輕快ナ

ラシムルニ在リ、是レガタメニハ、地形ニ餘儀ナクセラレ、不利益ナル縦長配備ニ誘導セラル、如キ縦隊々形ヲ採用センヨリハ、廣大ナル基線上ニ於ケル連絡作戰ニ依ルノ、比較的有利ノ結果ヲ得ベキハ無論ナルトス、

交通法ノ缺乏セシ戰役ノ性質ハ、各種ノ要求ヲ充實スルタメニハ、途上ニ横ワル確カニ大ナル障碍ナリシニ相違ナシ、密集部隊ヲシテ損害多キ不利益ナル敵ノ正面射撃ノ方面ニ向ツテ誘導セザル可カラザリシ、公然明白ナル過失ハ、専ラ軍事的物質ノ缺乏ニ起因セズンバアラス、

「ブーア」軍ガ許ルシテ、以テ、自カラ一地區内ニ於テ成形セル、情況ニ不適當ナル過廣ノ擴張ハ、敵ト第一ノ衝突ヨリシテ有力ナル攻勢動作ノ價值ヲ保有スルヲ得難カラシメタリ、何トナレバ「ブーア」軍ハ豫備隊ヲ貯フルトナクシテ戰鬪シ、是レガタメ一旦敵ノ陣地ヲ略取スルトアル

「ブーア」  
戰鬪法ノ  
弱點

モ、是ヲ永ク占有シアランガタメ、却テ我働作ヲ制肘セラレタレバナリ、

「ブーア」軍ハ、過廣ナル戰鬪線内ニ於ケル薄弱ノ一部、或ハ全ク敵ノ攻撃ヲ受クル恐レナキ位地ニ現存スル一部ヲ、戰線ヨリ脫離セシメ、是ヲ他ノ陣地ニ移シ、再ビ該方面ノ戰鬪ニ參與セシムルノ手段ニ依頼シ、屢々散兵線ノ強固ヲ維持セントセリ、然レモ斯ノ如キ働作ハ、必要上止ムヲ得サル特種ノ場合ニ實施スベキ處置ニシテ、少クモ掩護物アル戰場ニ於テ狀況ニ應ジテ取ルベキモノタルコトハ、吾人ノ是認スル所ナラシ、

攻者若シ右ニ述フルガ如キ敵ノ散兵線ノ融通手段ヲ認メタル時ハ、即チ所謂奈翁的戰法ニ從ヒ、第一線部隊ヲ以テ敵ノ全正面ニ向ツテ攻撃セシメ、是ニ依ツテ防者ヲ牽制シ、此ノ時機ニ乘ジ、神速ナル發進ヲ以テ、敵ノ陣地中薄弱ナル部分ニ向ヒ本攻ヲ實施スベシ、此際敵若シ「ブー

ア固有ノ戰法ニ依リ、攻撃思想ヲ放棄シ只タ受働的守勢ニノミ自己ノ働作ヲ制限スル場合ニ在リテハ、後方ニ引退シテ位置シアル豫備隊ヲシテ機動的働作ノ自由ニ出シムベキハ辨ヲ俟タズ、左レバ實際ニ於テ英吉利軍ノ正面ノ障碍ハ抵抗力ヲ有セザリシヲ以テ、適當ナル縦長配備ヲ取り得ルト共ニ、遲滞ナク敵翼ヲ包圍シ得ベキ銳利ナル區分ニ依ツテ成立セル戰鬪正面ヲ取り得ベク、隨所實ニ極メテ有利ノ情況ヲ以テ迎ヘラレタリ、

英軍ニシテ若シモ自己ノ側面ニ數理上優勢ノ兵力ヲ有シタランニハ、攻撃ガ敵ノ狹少ナル戰鬪正面ニ向ツテ楔狀的ニ實施セラレシニ比スレバ、過廣ノ戰鬪正面モ危險ヲ感ズルコト彌々少カリシナラン、

南亞戰ニ於ケル英軍ハ、非常格外ナル過剩ノ豫備隊ヲ所有シタルコトハ吾人ノ明カニ認ムル所トス、而シテ是ヲ過去ノ戰役ニ回顧スレバ管

## 豫備隊

タニ今回ノ戰役ニ於ケル英軍ノミナラス、事實略ボ是同數ナル多數ノ豫備隊ヲ有セシ戰例ニ乏シカラズ、是ニ由ツテ之ヲ見レバ縦長配備ノ價值ハ、豫備編成ニ於テ既ニ是ガ使用計畫ノ先見セラルト、或ハ少クモ豫備隊ノ應用可能ノ先見セラル、ト否トニ因スルモノタラザル可ラズ、

ブーア軍ノ戰鬪ノ如キ確定セル判決ヲ有セズシテ、勝利ハ只ダ局部毎ノ結果ヲ待ツベキ、小ナル情況ヲ有スル戰鬪ニ在リテハ、豫備隊ノ貯存ハ殆ンド不必要ニ屬ス、此ノ如キ性質ヲ有スル戰鬪ニ在リテハ、自カラ迅速ニ全力ヲ展開シ、戰鬪ノ初期ヨリシテ使用シ得ベキ優勢ノ火力ヲ第一線ニ現出スルノ處置ヲ以テ最モ有利トス、若シ夫レ不利ノ情況ニ遭遇シ、退却スル場合ニ際シテモ、任意ノ戰鬪地區ニ依ツテ掩護セラレ得ベキヲ以テ、決シテ我が退却ヲ阻止サル、ガ如キコト勿ルハシ、

戰鬪正面ニ關シテハ、ブリア軍ニ於ケルガ如ク個人的ノ集合射撃ヲ全躰ノ條件トナスコトナク、共同目標ニ對シ火力ノ掩助ヲ確實ニ發揚シ得ル如クセハ、其正面ハ自然ニ決定セララル、モノトス、

「ブリア」  
ノ遠心的  
退却法

南亞戰ニ於テ現ハレシ如ク遠心的ノ運動ヲ以テセハ、戰場退却ト雖モ危險ヲ感ズルコト比較的僅小ナルモノトス、此遠心的運動ハ唯一ノ退却法トシテ、全戰役間、ブリア軍ニ依リテ特ニ勉勵ヲ以テ實施セラレタルノ報告ハ、吾人ノ屢々耳セシ所ナリ、即チ「ブリア」軍ハ不利ノ戰況ニ際セバ、忽チ各方面ニ向ツテ散亂退却シ、後ニ至リ再ビ集合スルノ安全ヲ計リ、情況是ヲ許スルニ至ラバ新タニ勢力アル指揮ニ從ツテ集合シ、戰鬪力ヲ有スル軍隊ヲ成形セシコト是ナリ、

「デツケル」氏ハ此ノ退却法ヲ評シテ、普通ノ隊伍紊亂ト命名セリ、此ノ批評ハ大ナル狀況ニ向ツテハ實ニ適切ナリト謂フベシ、然ルニ、ヨミニ

「氏」ハ此退却法ヲ目シテ、單簡ニ野蠻的戰法ト酷評セリ、

雖然、此退却ハ顯著ナル價值ヲ有スル練兵場ノ演習ノタメ、小戰ニ適合スル戰鬪法ノ一種トス、何トナレバ密集部隊ハ各種ノ時機ニ於テ、各人ノ實體的快速、及ビ射撃ノ迅速ヲ學習スベク、且ツ試驗スベク適當セザレバナリ、

大計畫ニ依ツテ成立セル戰爭、却チ大戰ニ至レバ此退却法ハ始メテ切開的疑問ヲ生ズ、即チ區分セラレタル各部隊ノ展開、配備及ビ地區ノ限界ニ關スルコト是ナリ、然レモ茲ニ亦タ南亞ノ地形ヲ觀察スル時ハ、歐羅巴的戰場ノ性質ニ近邇セルモノアリ、即チ其地形ハ多少獨立的ニ戰ヲ成形シ得ベキコト、及ビ翼豫備タル各部隊ヲ、戰鬪線中ニ存スル弱點ノ後方ニ引退シテ、位置セシムルニ適當スルコト是ナリ、  
爰ニ故ラニ地形ノ緊要ナルコトヲ注意セントス、然レモ今新タニ喋々

其必要ヲ述ベシヨリハ、古來幾多ノ大識者ガ嘗テ吾人ニ與ヘタル訓戒的教訓ヲ再述スルノ勝レルニ如カズ、フリードリヒ大王ハ、戰鬪上ノ關係ニ於テ、地形判斷ノ緊要ナルヲ述ベテ曰ハク、『地形ハ最良ノ助言者ナリ、必ズ研究セラレザル可カラズ』ト、フオン、シユリヒチング將官ノ警告モ亦々、特ニ注目スベキ價值ヲ有ス、將官ノ言ニ曰ハク、『戰鬪動作ハ地形ノ如何ニ從ツテ變化セシメザル可ラズ』ト、尙ホ語勢ヲ強メテ曰ハク、『戰鬪ハ地形ニ從屬セシメヨ』ト、以上識者ノ言ハ、皆テ共ニ無意味ナル地形ノ使用ヲ戒メ、戰鬪區分ニ對スル、地形ノ關係的利用ヲ、勸告スルモノタルヲハ論ヲ待タザルナリ、

開進

吾人ノ常用的習慣、即チ防禦ニ適當ナル陣地ニ向ヒ分隊縱隊ヲ以テ行進スルノ方法ハ、自カラ其有利ナルヲ証明セリ、都ベテ狹正面ノ縱隊、及ビ地形線ニ從ツテ屈伸自在ナル隊形ハ、特ニ指揮運用ヲシテ巧ミ

ナラシム、

然リ而シテ分隊縱隊ナル隊形ハ、其分解及ヒ進退等、總テ大ナル容易ヲ以テ施行セラレ得ルモノナルガ故ニ、基本隊形トシテ、四個ノ分隊縱隊ヲ互ニ相併列使用スルノ方法ヲ設クルトキハ、大隊ノ運動上大ニ便利ヲ感ズルヲアラン、

分隊縱隊ノ價值

最近戰役ノ經驗ニ依レバ、大隊ノ排開運動ハ、複雑ナル隊形變換ヲ省略シ、簡易ノ方法ヲ以テ施行セラル、ヲ得タリ、射撃ノ効力顯著ナラザリシ時代ニ在リテハ、中隊縱隊、若シクハ中隊面ノ全距離縱隊ヲ以テ、戰場ニ出現スルモ、敢テ多大ノ損害ヲ蒙ルヲナカリシト雖モ、今ヤ此ノ時代ハ既ニ過去ニ屬シ、射撃堪能ナル敵ニ對シテハ、戰鬪ノ自然之ヲ餘儀ナカラシムルニ非ラザル限リハ、以上二隊形ノ一ヲ以テ、敵眼ニ曝露シテ戰場ニ出現スルヲ許ササルニ至レリ、若シ夫レ密集隊形ヲ以テス

中隊縱隊ノ運用

ル戰場ノ出現、避ク可ラザル場合ニ當リテハ、中隊ハ、各小隊ヲ排開間隔ヲ有スル、分隊縱隊ニ分解併列シ大隊ハ、梯隊距離ヲ存シテ各中隊ヲ前後ニ重疊セシメ、三個ノ狹正面縱隊ヲ以テ、運動スルヲ實際確實ナリトス、而シテ如此隊形ヲ以テセバ、隊形變換、及ビ展開等、又甚ダ容易ニ施行スルヲ得ベシ、眞面目ノ場合ニ在テモ亦タ、小隊毎ニスル分隊縱隊ハ、何レノ地形ニモ容易ニ適應セシメ得ベキ、實ニ辯ヲ待タズ、

古代ノ「ゲツセル」的方法ノ一流儀トシテ、尙ホ萬花鏡ニシキメダシ的ノ現出ニ對シ絶ヘズ偏愛ヲ示セシ、中隊縱隊ノ運用法モ今ヤ其効力ヲ失ヘリ、然レモ絶對的ニ此ノ運用ヲ全廢スルヲ要セズ、行進目標ニ達スルタメノ運動ニ際シテハ用キテ以テ利益アルナリ、又稀レニ練兵場以外ニ於テ遠距離ノ運動ニ用ユルノ必要アリ、此隊形ヲ以テスル運動ハ、短距離ニ在リテハ犯カスヘキ高度ノ過失ヲ除去スルヲ得ベシト雖モ、距離遠大ノ場

四小隊編成

合ニ在リテハ然ラズ、而シテ大隊ヲ中隊縱隊ニ分割スルカ、或ハ否ザルカハ常ニ時ノ狀況ニ關係ス、既ニ戰鬪加入ヲ準備シテ展開セル大隊ガ、此隊形ヲ取ルハ實ニ稀有ノ場合トス、

小隊ノ戰鬪實行ハ、散兵線ノ膨脹ニ因ツテ絶ヘズ一層ノ困難ヲ生ズルモノトス、故ニ若シ四個小隊ノ區分ヲ中隊ニ許ルス時ハ、一定ノ或ル戰鬪目的ニ向ツテ展開ニ於テ有益ナル區分法ハ、中隊ニモ亦タ應用スルヲ得ベシト言フニ就テハ、顧慮ヲ要スベキ事項トス、

縱隊先頭警戒

「ブリア」戰ヨリ實驗セラレタル經驗、即チ戰場ニ於テ時々小戰鬪ノ前提セラレタル事實ヨリシテ見ル時ハ、何レノ場合ト雖モ行軍縱隊ノ警戒隊タル、前衛様ノ中間部隊ヲ編成シ、先頭ヲ警戒スルヲ良好ノ行爲トス、

小隊毎ニ展開スル意見ニ從ヘハ、四小隊ヨリ成ル中隊ハ、各種ノ狀況

ニ於テ此問題ヲ有利ニ解釋シ得ルナラン、  
 處置ノ自由ハ中隊長、小隊ノ獨立維持ハ中隊附士官、中隊及大隊指揮  
 ノ均齊ハ下士兵卒ノ教育ニ從屬スルモノトス、  
 戰場ニ於ケル目的ノ如何ニ因リテハ、大隊モ亦中隊ノ如ク、戰術上異  
 類ノ編組ヲ用キザル可ラズ、中隊ハ大隊中ニ於テ密接シテ離ル可ラザ  
 ルモノニシテ、且ツ中隊ハ全一原則ニ從ヒ論理的働作ヲ實行セザリシ  
 ヲ以テ、戰鬪單位トシテ價セラタル大隊ハ一モ効力ヲ有セザリキ、  
 大隊ハ、大隊ニ許サレタル地區ヲ更ニ區分シテ各中隊ニ配當ジ、而シ  
 テ所要ニ應ジテ各中隊ヲ後方ヨリ豫定ノ地區内ニ進入セシメント雖  
 モ此處置ハ翼的戰鬪法ニシテ、中隊ニ於テハ場合ノ然ラザルモノアリ、  
 地區ノ占領ハ縱隊ヨリ放線的ニ實視セラレ、且ツ中隊ノ全戰鬪地區ヲ  
 一時ニ占領セシム、散兵線全隊死傷ヲ補填スルタメ、伍間増加ヲ行ヒシ

ニ依リ、中隊ノ散開ニ在リテハ、散兵線ノ増加セラル、ニ從ヒ、漸次第一  
 線ノ混淆ヲ増大セリ、

射撃ノ指揮ニシテ、殆ント専ラ小隊長ノ掌裡ニ存スル如クナルニ至  
 ラバ、若干歩遠ク前進スル、及ビ戰鬪線ニ散開前、小隊ニモ亦ターノ確  
 實ナル、獨立ヲ許ルシ得ヘキコト明カナリ、而シテ小隊若シ原則ニ從ッ  
 テ、四伍ノ分隊ニ編成セラレアリシ時ハ、小隊ハ運動上著シキ單簡ヲ作  
 出セシナラン、

若シ夫レ情況不穩ノ土地ニ於テスル火戰ノ開始ハ、不明ノ地區ニ向  
 ツテ前進スルニ際シ、特ニ注意ヲ爲サル可ラズ、之ニ反シ情況若シ充  
 分ニ明カナル場合ニ在リテハ、充分ナル火力ヲ集注スヘキ利益ヲ逸失  
 セサルヲ要ス、換言スレハ少數兵力ヲ以テ大數ノ兵力ニ對シ、火戰ヲ開  
 始スルノ危險ナリトノ觀念ヨリシテ、敵ヲシテ戰鬪ヲ避クルニ至ラシ

メサルヲ要ス、

戰線ヲ増加セシタメ、後方ヨリ前方ニ向ツテ招致セラレタリシ後續部隊ハ實際戰闘ニ加入スルニ至ルマテノ間ニ於テ、落伍兵及ヒ前進途中ニ於テ蒙リシ損害等ノタメ、屢々彼ノ戰闘價值ヲ減少セリ、稀薄ナル散兵線ハ、英軍ノ屢々拒用セシ所ナリ、然レハ散兵線ヲ稀薄ナラシメント欲セハ、散開セシヘキ兵數ヲ減少セサル可ラズ兵數減少セハ第一線ノ銃數從ツテ減少スベシ故ニ猥リニ稀薄ナル散兵線ヲ採用スルハ適當ナラズ、若シ人アリ散兵線ノ兵數ヲ減ジ銃數ヲ少カラシムルモ、各散兵極メテ多數ノ彈藥ヲ消費スルヲ許サバ、稠密ナル散兵線ニ少數ノ彈藥ヲ與ヘタルモノト効力相同シカラントノ説ヲナスアラシカ、是レ大ナル謬見ナリ、注意セサル可ケンヤ、

「フォンデヤ、ブラニツ、將官曰ク『榴彈ハ實ニ最良ノ攻撃準備物ナリ』ト、

斯言ノ趣旨ハ能ク歩兵ニモ適用スルヲ得ベシ、命中効力顯著ナル銃火ハ亦タ榴彈ト同一ノ効力ヲ有ス、假令命中ノ著シカラザル時ニ於テモ、其彈丸敵ニ近ク落下スル時ハ我希望ヲ敵ニ明カナラシメ、遂ニ彼ノ志氣ヲ阻喪セシメ、而シテ我ト對戰スルニ不安ノ觀念ヲ喚起セシメ、少クモ不完全ナル攻撃準備ヲ補償ス、

若シ夫レ我軍ニ於ケル損害ニ依ツテ部下ノ獨立的觀念ヲ消滅セシムルノ恐レアル時ハ、下級指揮官殊ニ將校ハ激勵的言動ヲ以テ部下ノ勇氣ヲ鼓舞スルコトニ務メサル可ラズ、然レハ展開セル中隊ノ散兵戰闘開始ニ當リ、既ニ錯雜混淆セル場合例ヘハ各兵卒自己ノ直接屬スベキ下級指揮官ノ掌裡ヨリ逸脱セルガ如キ秩序ノ紊亂發生セル時ニ於テハ、部下ノ鼓舞指導ハ辛フシテ之ヲ爲シ得ラル、モノトス、

「人先ツ隊伍ノ整頓ニ注意セヨ、恐怖ハ救ヒ難キ秩序紊亂ノ創造者ナ



リト雖モ、隊伍ノ整頓ナルモノハ、絶ヘズ一層ノ良好ヲ以テ、秩序唱亂ヲ醫治ス。

是レ今ヨリ約百年前、ハインリヒ、フオン、ビュロウス氏ニ依ツテ唱ヘラレシ言トス、今此ノ説ノ眞理ヲ以上ノ場合ニ適用スルハ、大ニ興味ヲ有スルモノトス。

當時世人ハ、ハインリヒ、フオン、ビュロウス氏ノ意見ヲ目シテ、精神的規則ニ遠ザカリタル説ト認メ、此ノ意見ニ對シテ劇シク攻撃ヲ試ミタリ、然レモ眞理ハ掩フベキモノニ非ラズ、今日ニ至リテ此ノ適切ナル言ハ、全ク格段ノ價值ヲ有スルモノト、回想認定セラル、ニ至レリ。

秩序ヲ維持スルニ關シテハ、隊伍ノ整頓極メテ緊要ニシテ、之ヲ措ヒテ他ニ其適當ノ方法ナク、且ツ隊伍ノ整頓ナルモノハ、全ク是ヲ必要トスル場合ノミナラズ、時機ヲ得ル毎ニ屢々之ヲ實施セサル可ラザルモ

隊伍頓整  
ノ時機

ノナルモ、然レモ如何ナル時機ニ於テ隊伍ノ整頓ガ適用セラレザルカニ就ヒテ認可ヲ與フルコト、換言スレバ隊伍ヲ整頓スベキ時機ニ就ヒテハ原則ノ存スルコトナシ。

數中隊若シ同時ニ展開スル場合ニ在ツテハ中隊ヨリ各一箇小隊ヲ散開セシメ、恰モ彼ノブリア軍ガ有利トシテ採用セシ射擊群ノ如キ配置ヲ取ラシメ、後方適當ノ地點ニ密集部隊ヲ位置セシムル時ハ、所要ニ應ジテ散兵線ノ翼ヲ延伸スル容易ナルモノトス。

若シ稀薄ナル散兵線ガ、正面警戒トシテ敵ニ對シテ配備セラレ、而シテ伍間増加ヲ以テ該散兵線ヲ連續補填スルトキハ混淆ヲ招クノ基トス、各散兵群、中隊ノ戰鬪地區内ニ自カラ廣ク散開シアル時ハ、兵卒ハ各小隊長及ビ各散兵群ノ指揮官ノ掌裡ヲ逸脱ス之ニ反シ小隊若シ分隊毎ニ併列シテ使用セラレ、而シテ分隊ヨリ一人ツ、或ハ一伍ツ、補填

ニ充ツルトセバ各散兵群ハ錯雜混淆ノ憂ナク、秩序整然タル狀況ノ下ニ、自カラ補充セラル且ツ各小隊ハ正當ナル排列ヲ保チ得ルモノトス、若シ又例ヘハ只ダ一小隊ノミヲ以テ薄弱ナル散兵線ヲ成形セザル可ラサル時、況ンヤ一翼ニ在ル分隊ヲ以テ、中隊ノ占領スヘキ位置ニ向ツテ先ヅ散開セシメント欲スルガ如キ場合ニ在リテハ、少クモ二三ノ射擊群(分隊)ヲ散開セシムルヲ可トス、然ル時ハ各射擊群ハ間隔ヲ保チテ併列スルヲ得、他ノ小隊モ亦タ漸次此ノ方法ニ依リテ散兵線ニ排列セラル、時ハ射擊群ノ指揮官ハ部下ノ統轄ヲ失フコトナシ、其最良ナルハ十六人ヨリ成ル分隊トス、

各小隊長若シ専ラ隣接分隊長ト連絡ヲ保持シアル時ハ、小隊内ニ向ツテ新排列ハ殆ンド困難ヲ感スルコトナク實施スルヲ得ベシ、而シテ小隊内ニ現在スル分隊長ガ人員ニ基ツキ略ホ幾何ノ兵力ヲ以テスヘキ

## 散兵ノ間隔

カノ問題ハ、自カラ決定セラル、ト全時ニ、一小隊長ニ對スル指揮範圍ノ廣狹、即チ一小隊長ハ略ホ幾何ノ戰鬪正面ヲ保ツベキヤノ問題ヲ適當ニ決定セラル、ヲ得ベシ、

然レモ斯種ノ正面ハ、只タ戰鬪ノ場合毎ニ、決定セラル、モノナルヲ以テ、數理上豫シメ其正面ノ廣サヲ一定スルヲ得ズ、然レモ照準ヲ爲スニ際シ、容易ナラサル不便ヲ感スルガ如ク、各兵ノ間隔ヲ密集シ、戰鬪正面ヲ狹少ナラシムル如キノ處置ハ考以外ニ置カレサル可ラズ、

人若シ散兵線ニ於テ展開セシムベキ、一中隊ノ戰鬪正面擴張ノ度ヲ米突數ヲ以テ示サントセバ、中隊ハ甚々大ナル正面ヲ占有スヘキコトヲ知ラン、是レ中隊ノ全人員ハ自由ナル時間隔ヲ以テ、射擊ヲ容易ナラシムルヲ要スルガタメナリ、

然レモ中隊ノ戰鬪正面ハ、各中隊トモ常ニ同一ナリト謂フヲ得ズ、平

時ニ在リテハ定員ニ關シ、戰時ニ於テハ損害ノ多少、補充ノ如何ニ從ヒ實際種々ナル變化ヲ生スルモノトス、故ニ中隊ハ孰レモ均齊ナル正數ヲ得ル能ハサルノミナラス、却ツテ種々ノ原因ニ結付セラレ非均齊ヲ生スルナラン、又若シ數字ヲ以テ現ハスニ代ヘ、一中隊ノ展開正面ヲ單純ニ理解セント欲セバ、觀察ニ據ル理解ニ依ツテ一層容易ニ知ルコトヲ得ヘシ、以上論シ來リシ數字ハ通常論理的由來ガ基ク所ノ理解ヲ現ハス、尙ホ同法ヲ以テセバ種々ナル他ノ數ハ確カニ自カラ尺度的説明ト全價值ヲ有スル詞ヲ以テ指示スルヲ得ベシ、

茲ニ避ク可ラサル一ノ不利アリ、即チ中隊長ハ個人的狀態ニ於テ兵卒ト同一ナル運動ノ自由ヲ有セズ、餘儀ナク展開セル中隊ニ在ツテ射撃ノ指揮ハ、時トシテ彼ノ下級指揮官ニ移轉セザル可ラサルコト是ナリ、

勤務上ニ經驗ヲ有スル中隊長ヲ補佐シ、微細ノ小事ニ至ルマテ過失ナカテシメンニハ、小隊長ハ益々精確ニ働作セザル可ラス、射撃ニ際シテハ目標ノ指示ニ關シ大ナル注意ヲ爲サザル可ラス、目標ノ指示ヲ明瞭確實ナラシメント欲セバ、目標ノ認識ヲ精確ナラシメサル可ラズ、是レカタメ望遠鏡ヲ以テスル視察ハ實際的ニ効力ヲ有ス、各射撃群ノ指揮官ニ至ルマテ勤務上望遠鏡ヲ使用セシムルコトハ予ノ大ニ希望スル所ニシテ、若シ是ヲ使用セシメ得ルニ至レバ實ニ大ナル進歩ニシテ下級指揮官モ亦タ明カニ目標ヲ認識スルヲ得、是ニ依ツテ將校ノ取りタル處置及ヒ號令ハ、下級指揮官ノ視力、遠距離ニ及バサルノ故ヲ以テ誤解セラル、コト勿ルベシ、是ト全時ニ實際ノ場合ニ當リ、兵卒ハ指示セラレタル目標ヲ肉眼ヲ以テ全ク明カニ識別スル能ハザルモ、下級指揮官ニシテ望遠鏡携帯シアル時ハ、是ニ依ツテ目標ノ照準點ヲ規定シ

地圖材料

テ部下ニ號令スルヲ得、以テ其命中力ヲ充分ナラシムルヲ得ベシ、  
地圖ヲ利用シテ敵トノ距離、又ハ目標物トノ距離ヲ測定スル補助  
手段ハ、若シ地區ニシテ地圖ノ縁端ニ相當スルハ、困難ニ遭遇ス、即チ  
二枚、三枚若クハ四枚ノ地圖ヲ使用スルハ、不便ナレバナリ、然リト雖モ  
地圖ニシテ各々其縁端線ヲ出テ、尙ホ隣接地圖ノ地形ヲ約半「マイル」  
間ヲモ記載シアル時ハ、此ノ不便ヲ除去スルヲ得ルナラン、

風力ノ測定

風力ノ如何ハ射撃ニ重大ノ關係ヲ有ス、然レモ射撃ニ際シ、風力ニ顧  
慮スルコト不十分ナルハ、一般普通ノ状態トス、飛揚自由ナル振子ニ依  
ツテ、風力ヲ測定スルコト、及ビ各種ノ距離ニ於ケル、是レガ影響ヲ發見  
スルコトハ、容易ナルモノナルガ故ニ綿密ニ是ヲ調査スルヲ緊要トス、  
然レモ氣流ハ元來變化シ易キモノナルヲ以テ、時トシテハ其測定ヲ無  
効ニ歸セシムルコトアルハ固ヨリナリトス、

距離測量器

次ニ距離測量器ノ使用ヲ最モ單簡ニ説示セントス、大戦ニ於テ距離  
測量器ヲ使用シ、敵ニ至ルマデノ距離ヲ豫測センコトハ測手ニ高度ノ  
危険ヲ與フルモノナルヲ以テ、之ヲ實施シ得ル場合實ニ稀有ナリトス、  
然レモ測量手若シ我が散兵線ノ後方遠距離ニ位置シ、士官ノ監視下ニ  
於テ、目標物トニ至ル距離ヲ測定シ得ヘキ有利ノ場合ニ在テハ、強チ之  
ヲ應用シ得サルニ非ラズ、掩護ヲ望ミ得ベキ、中間停止地點ニ、位置スル  
散兵線ノ一部、若シ一定ノ記號ニ依リ、本隊ト敵トノ全距離ヲ教示セラ  
レ、而シテ自己ノ位置ト本隊トノ距離ハ、小測量器ニ依ツテ測定セラル  
、時ハ、敵線ニ至ルノ距離ヲ決定スルヲ得ベシ、適當ナル陣地變換ニ依  
リ、巧ミニ以上ノ働作ヲ許ルスヘキ時機ヲ見出セシメ、散兵線内ニ於ケ  
ル逐次ノ傳告ニ依ツテ、利益ヲ收得セシムルコトハ本隊ノ爲スヘキ事  
項ノ一トス、

躍進ノ開始

散兵線、若シ以上述べタル所ノ補助材料ヲ使用シ、敵ニ至ルマデノ距離、風力ノ方向並ニ其強度ヲ測定シ火戦ガ合理的ニ開始セラル時ハ、攻勢時機ハ漸次ニ成熟シ、之ニ次グニ躍進ヲ以テスルヲ順序トス、ブーア戰間各地ノ戰場ニ於テ現ハレタル事實ハ英軍ノタメ尤モ危険ナル時機ハ躍進開始ノ瞬時ナリシコトヲ明カニ證明セリ、是レ此ノ時機ニ於ケル英軍ノ働作ハ常ニ敵ヨリ至當ニ判斷セラレ彼ノ準備射撃ハブーア兵ニ有利ノ機會、即チ前進スル敵ニ對シ照尺ヲ變スルコトナク、專ラ射撃ノ増加ニ依ツテ戰勝ヲ獲取スルノ機會ヲ與ヘタリ、

「ブーア」兵ノ射撃時機

「ブーア」兵ガ敵ノ攻撃準備ヲ不利ナラシメタルノミナラス、却ツテ特ニ猛烈ナル射撃ノ督促タル大聲ノ號令ヲモ、亦タ同ジク注意セシコトヲ確認セバ、世人ハ「ブーア」ノ戰報ニ信用ヲ措クヲ得ン、是ニ由リテ發聲的號令ハ、特ニ可成之ヲ低音ナラシメサル可ラズ、且

記號ニ依ル射撃ノ指揮

指揮

ツ爲シ得レバ、記號ヲ以テスル指揮ヲ理解セシムル如ク、勉メシムルヲ一層良好トス、若シ夫レ小隊長、及ビ分隊長ニシテ、部隊ノ中央前ニ位置スルニ換ヘ、狀況ニ從ツテ繼續的ニ、或ハ一時限的ニ隊列ノ背後適宜ノ地點ニ位置シ、記號ニ依ツテ指揮スルヲ得バ、靜肅ニ躍進運動ヲ開始スルヲ得ルナラン、而シテ傳告、告諭及ビ其他ノ手段ニ依リ、散兵ヲシテ極メテ靜肅ヲ守リ、且ツ極メテ陰密ニ運動ニ準備セシムルハ分隊長ノ任務トス、記號ニ依ツテスル前進命令ガ、下級指揮官ニ了解セラレシヤ否ヤヲ認ムルタメノ一小手段ハ、受令者タル下級指揮官ヲシテ左足ヲ後上セシムルコトニ依ツテ確定スルヲ便利トス、此快速記號即チ下級指揮官ガ左足ノ後上ト同時ニ之ニ次グニ急速ナル前進ヲ以テス、此時待期ノ姿勢ニ在ル散兵ハ、射撃ヲ繼續シツ、靜肅ナル躍進ノ號令ニ依リ速ニ前進運動ヲ始ムベシ、

躍進距離ノ長短ハ、年ノ經過ニ於テ屢々變化セリ、ブ、ア、戰ハ、當該戰役間ノ事實ニ於テ、短距離ノ躍進ハ、敵ニ射撃ノ利用ヲ一層狭少ナラシムモノナルヲ假定セリ、若シ夫レ短距離ノ躍進ニ依リ、以上ノ如ク敵ヲシテ射撃ノ効力ヲ少ナカラシメタリトスルモ、只ダ單ニ短距離ノ躍進ノミガ、專ラ損害ヲ減少スルノ原因ナリシト謂フヲ得ズ、何物カ他ニソノ成功ヲ補佐セシモノナクンバアラズ、即チ敵ノ戰鬥力、自軍ノ狀態、及ヒ地勢ハ、他ノ戰鬥影響ノ外ニ絶ヘズ、實際ノ場合ニ關係ヲ有スルモノナルヲハ、決シテ等閑視セラレサルヲ要ス、特ニ指揮官タル將校ハ、測定ヲ誤リタル躍進距離ニ依ツテ、部下兵卒ヲ掩護ナクシテ敵火ノ下ニ曝露セザランガタメ、視線ヲ前地ニ注カザル可ラス、散兵線ニ於ケル各個射撃ノ教育程度、若シ著シク進歩シアル時ハ、各

人自カラ眼目ヲ以テ小隊ノ豫定前進路ヲ偵察シツ、行進シ得ルヲ以テ、此前進ハ利益充分ニ實施セラレ、各散兵ハ出來得ル丈ケ極メテ速カニ適當ノ射撃陣地ヲ發見スルヲ得、充分ナル時間ノ餘裕ヲ以テ攻撃實施ニ移リ得ルモノトス、下級指揮官先ゾ部隊ノ正面前ニ進出ス、然ル時ハ是レ部隊ノ前進運動ヲ開始スルノ徵候ニシテ、此時機ハ假令ヒ單時間ナリト雖モ、然レモ敵ニ著シク認識サレ易キ形象トス、此方法ニ於テ前進セシメラル、散兵線ヲ注視セヨ、散兵線内ニ劇シキ騷亂ヲ認ムベシ、知何トナレバ各兵卒ハ地形及敵方ヲ注視スルニ換ヘ、行進方向及ビ間隔ヲ以テ、自カラ新線ニ加入センガタメ、隊列ニ壓迫ヲ生スレバナリ、地形線ニ從ツテ躍出スル散兵線ハ、全兵卒ヲシテ常ニ尤モ有利ナル射撃陣地ヲ直チニ占有セシメ得ザルハ、自然ノ狀態トス、是ニ由ツテ兵卒ハ匍匐運動ニ依リテ、

各個ニ地形ノ不利ヲ補フコトヲ計畫スルノ必要ヲ喚起スルニ至ルモノトス、

銃ノ保持  
法

然リ而シテブーア兵ノ行フ匍匐運動ハ其實行頗フル迅速ナリ、其際只タ彼等ノ運動ヲ妨碍スルガ如キ觀アルハ小銃トス、彼等ハ是ヲ地上ニ壓迫シ、又ハ地面上ヲ挽キ摺リ、或ハ是ヲ後頭ニ換へ、以テ其運動ヲ妨ケル勿ラシメントス、是ニ應ジテ武器其物ヲ損害スルヲ夥シ、此困難、此危險ヲ排除スベキ實際的ノ方法ハ、茲ニ暫ク工夫家ノ善良ナル理想ニ委セントス、

爰ニ擔へ銃ニ就ヒテ説明スルニ當リ、野外要務令ガ哨兵ニ擔へ銃ヲ禁制セシコトヲ回想スルヲ要ス、何故ニ野外要務令ハ哨兵ニ、此ノ保持法ヲ禁シタル歟、蓋シ擔へ銃ニ在ル哨兵ハ、既ニ遠距離ヨリシテ、敵眼ニ觸レ易キモノナルコトヲ悟ラバ、野外要務令ガ哨兵ニ之ヲ禁制セシ理由ハ

自カラ明ラガナルニ至ルベシ、此ノ顧慮ヨリシテ、吾人ハ、豫備隊ノ位置ニアル諸隊ニ向ツテモ亦タ擔へ銃ヲ禁シ、之ヲ臂ニスルカ、若クハ負ヘル負革ヲ以テ、散兵ガ銃ヲ取扱フ時ハ、射撃演習ヲ行フニ際シ、更ニ負革ヲ伸長セザル可ラザルガ故ニ、取扱上複雑ヲ免レズ、若シ又懸吊セル負革ノタメ、果シテ銃ノ操法上不便ヲ感ゼバ、只タ此ノ時機ニ限り、一時負革ヲ短縮シ、其他ノ場合ニ在リテハ、常ニ之ヲ伸長セシメ置クヲ可トス、而シテ負革ヲ一齊ニ緊張シ及ビ正確ニ負へ銃ヲナサシムルハ、戰場ニ於テ一モ妨碍トナルベキモノナク、密集セル單位ハ、總テ號令ヲ以テ、容易ニ是ヲ行ハシムルヲ得ベシ、此ノ點ニ關シテモ亦軍記ハ著シキ映響ヲ與フ、

凡ソ敵ヲ攻撃セント欲スルモノハ、敏活ニ突撃實施ノ時機ヲ撰バザ

英軍ノ攻不  
利ナルノ  
撃法

ル可ラズ、假令ヒ其兵力、敵ヨリ優勢ナル時ト雖モ、時機撰定ノ適否如何  
 ニ因リテハ、優勢ノ軍隊モ、是ニ價ヒスヘキ効力ヲ奏シ得ザルモノトス、  
 英軍攻撃法ヲ見ルニ、躍進ニ依ツテ戰鬪距離短縮ヲ求メ、徐々敵線ニ對  
 シテ近接ヲ計レリ、然レモソノ突撃法ヲ見ルニ、一般毎ネニ過早ノ時機  
 ヨリシテ實施セラレタリ、視察ノ結果、我カ火力敵ヨリ優勢ナルト確實  
 ニシテ、ソノ兵力モ亦タ彼ヨリ遙カニ優勢ナルヲ偵知セバ、我ハ我ガ陣  
 地ヨリ敵ノ陣地ニ向ツテ攻勢出撃ニ移リ、充分有利ノ結果ヲ奏シ得ル  
 モノトス、然レモ南亞戰ヲ軍事的ニ觀察セバ、英軍ハ猥リニ前進運動ヲ  
 以テ、彼我兩軍間ニ横フル地區ノ減縮ヲ求メ、專ラ是ニ依リテ戰勝ヲ收  
 得セリ、英軍ノ此働作ハ雷ダニソノ目的ヲ成功シ得ザリシノミナラズ、  
 戰術上一種ノ冒險的禁制タリシニ過ギズ、英吉利歩兵大隊ノ攻撃ニ關  
 スル記事ヲ讀ム、書中實ニ左ノ句アリ、

「着劍ノ號令及ビ神ガ女皇ヲ助クトノ攻撃的吶喊、明カニ隊列ニ沿  
 フテ順次ニ傳ヘラル、ヤ、萬卒舉ツテ之ヲ和唱シ、射撃ハ是ト同時  
 ニ開始セラル、敵ヲ距ル百步乃至八十步ニ近ヅクヤ、茲ニ襲歩ニ移  
 リ、敵陣ニ突入シ、歩兵大隊ハ一團トナリテ塵滅セラレタリ」

以上ノ如キ事實ヲ回想スレバ、攻撃ニ於テ價值アル戰爭的激情ハ、實  
 ニ眞面目ナル働作ノ恩惠内ニ制限セラレザル可ラザルモノナラン、詳  
 言スレバ、時ノ狀況之ヲ許ル時ハ、可成常ニ敵ヲ彼レノ陣地ヨリ誘出  
 シ、一クビ彼ノ弱點ヲ發見セバ、猶豫スルコトナク、猛烈果敢ニ攻撃ニ移ル  
 ノ處置ヲ採ルヲ緊要ナリトス、

前條ノ例ニ於テ説明セシ如ク、戰鬪上特殊ノ號音(鼓笛等)ハ雷ダニ我  
 ガ軍隊ノ勇氣ヲ鼓舞獎勵スルノミナラズ、一ハ以テ敵ノ志氣ヲ奪ヒ、假  
 令戰鬪力ヲ有セル敵ヲモシテ我レノ對戰ヲ絶望セシムルニ至ルコト

物質的ノ  
激動



アルモノナリトス、

「フォン、ゲーメン」將軍嘗テ吾人ヲ諫メテ曰ハク「鼓奏、及ヒ號音ノ吹奏ハ、危険ナル時機ノ近接ヲ、敵ニ通告ニ彼ヲ豫戒スルモノニシテ、即チ我カ對戰ノ標準ヲ敵ニ豫告スルニ近シト」フォン、シユリヒチングス「將軍モ亦タ、過早ナル若シハ過度ナル鼓奏ヲ諫止スルタメ、諷刺語調ヲ以テ、吾人ニ次ノ如キ教示ヲ與ヘタリ、曰ハク「鼓ハ模範的連發銃ニ對シ劣等ノ武器ナリト」

「フルラー」ナル喊聲ト、讚美的感情ノ樂器トヲ以テスル進撃ハ、狀況若シ不利ヲ呈スルニ至ラバ、失望、落膽ノ感ヲ明カニ部下ニ告知スルノ弊ナキニ非ラズト雖モ、他ノ一面ヨリ觀察スル時ハ自己ノ軍隊ヲ以テ、確實ニ我ト對戰シアル敵ノ陣地ニ向ツテ突入セシムル上ニ就テハ、確實ナル効力ヲ有スルモノトス、

突撃戰法  
ノ價値

### 第三、練兵場

戰術上ノ  
原則

南亞戰ニ據ツテ證明セラレタル、戰術上ノ原則ハ、從來既ニ承認セラレシ經驗ヲ、實際ノ眞理トシテ、只タ自カラ證明セシニ過キズ、若シ夫レ戰鬪ニ際シ、新現象ノ發生スルコアラシカ、然ル時ハ直チニ必要ニ應ジ、戰術上ノ原則ヲ變更スルカ若シクハ之ヲ放棄セサル可ラズ、

指揮官タルモノハ絶ヘズ變化スル戰況ヲ修得スルコトニ依ツテ、平素廣濶自由ナル眼界ヲ保持スルコトニ務メザル可ラズ、且ツ又戰鬪動作ニ於テ、重モニ原則的問題ノ説明テ偏スル、原則的形式ニ基ツク事項ヲ修習セシヨリハ、寧ロ平時ノ演習ニ於テ、戰鬪原則ヲ撰擇學習セサル可ラズ、我戰術界ニ於テ、最モ有名ナル戰術家ノ一人タル某氏ハ、軍隊指揮ニ就ヒテ次ノ如ク言ヘリ、曰ハク「軍隊指揮官ナルモノハ、原則ニ反シ破格

ノ處置ヲ實施シ得ルヲ實ニ極メテ多シトシルレル氏ノ著述ニ係ル「ク  
 ロツケ」ノ歌意亦タ某氏ノ認容ト相合ス、歌中實ニ左ノ一句アリ、只ダ教  
 師ノミハ原則的形式ヲ破壞スルヲ得、尙ホ語ヲ續ケテ曰ハク「徒弟ニ至  
 リテハ、是ヲ破ルノ能力ヲ有セズ」ト、一ノ難問ヲ以テ個體的卓越者ノ解  
 釋ニ委セントス、是レ「シルレル氏」ノ要求ニ非ラザルナリ、宜シク斯ノ如  
 キ難問ハ、全般ノタメ博識家ヲ待ツテ、茲ニ始メテ解釋ヲ委任スベキヲ  
 要求セルモノナリ、

然レモ練兵場ノ狭小ナルト、及び各戰鬪演習ニ使用シ得ベキ時期、換  
 言スレバ教育時期ノ短少ナルトハ、各種ノ演習計畫ニ一定ノ制限ヲ與  
 フルモノトス、

彼我兩軍互ニ行軍隊形ヲ以テ、一地點ニ於テ相衝突スルノ所謂遭遇  
 戰ナルモノニ在リテハ、兩軍相一致シテ戰鬪展開ヲ開始スル場合、詳言

練兵場ニ  
 於テスル  
 戰鬪展開

スレバ、某地點ニ於テ、彼我共ニ殆ンド同一ナル戰鬪實行ノ時機ニ在ル  
 時ニ非ラザレバ、決シテ成立セザルモノトス、

凡ソ演習ノ計畫者タリ、統監タルモノハ、演習ヲ施行セント欲スル地  
 形ノ問題ヲ以テ、演習計畫ノ基礎トナサザル可ラズ、夫レ故ニ演習指導  
 上ニ生ズル困難ハ、總テ皆ナ當該計畫者ノ頭上ニ落下スルモノトス、批  
 評的事項ハ演習ノ本旨ニ非ラズ、是レガ附帶事件ニ過キザルモノナリ、  
 其他演習ニ在テハ第一ノ展開ヨリ、最後ノ突撃ニ移ルマデ、各時期ハ  
 互ニ相關聯シテ順序的ニ實施完結セラレザル可ラズ、然ルニ演習計畫  
 往々連繫ヲ欠キ、爲メニ部下軍隊ヲシテ戰鬪任務ノ實行ニ當リ、動作ノ  
 不完全ヲ招カシムルノ弊害ナキニシモ非ラズ、

「ドンケルヘー」ク附近ノ戰鬪ヲ見ルニ、英軍ハ常ニ開豁地ニ於テ、敵ヲ  
 去ル三吉羅乃至三吉羅米突半ノ距離ヨリシテ、既ニ展開運動ヲ開始セ

「ドンケルヘー」ク  
 附近ニ於テ  
 英軍ハ常ニ  
 開豁地ニ於  
 テ展開運動  
 ヲ開始セ

リ、此ノ展開距離ハ實ニ過早ニ失ス、予ヲシテ同地附近ノ戰鬪ヲ指揮セシメタランニハ、此ノ如キ働作ハ施行セザリシナルベシ、然レモ「ブーア」ノ二三砲兵中隊ノタメ、英軍ハ斯ク距離ノ遠隔セルニモ不拘、密集部隊ノ展開ヲ餘儀ナクセラレタルカ、若シクハ歐羅巴式軍隊ト同一ナル、數多ノ良砲兵ヲ有スル、敵ニ對スルノ顧慮ヲ以テ、英軍ハ不得止、其歩兵ヲ遠距離ヨリ展開セシモノトセバ、深ク咎メズシテ可ナリ、

然レモ英軍ノ採リタル處置ヲ熟考セバ、騎兵及ヒ他ノ特科兵種ノ無能ナリシハ、批難ヲ免ル、能ハザル所ナルベシ、然リ他兵種ノ無能、固ヨリ大ナル不利ヲ英軍ニ與ヘタルニ相違ナシト雖モ、一方ヨリ見ル時ハ、戰場ノ地形モ亦タ確カニ不利ノ原因タリシナラン、

戰場ノ地形ト命令トノ關係上、戰鬪實行ノ困難新タニ發生セシ時ハ、特別ナル注意ヲ是ニ向ツテ致スベキ此ノ情態ハ、歩兵ノ訓練不良ニシ

テ、戰鬪ノ主旨ニ適合セザリシニハ非ラザルヤノ觀念ヲ惹起セシム、夫レ指揮官タルモノハ、時ノ狀況ヲ正當ニ判斷シ、且ツ單簡明瞭ナル命令ニ基ツキテ、部下軍隊ヲ戰鬪ニ指導スル能力ヲ有セザル可ラザルハ論ヲ待タズ、然レモ「ブーア」戰役ノ經驗ニ從ヘバ、斯ノ如キ戰鬪上ノ變象中ニ於テ、部下軍隊ノ働作如何ヲ試験センガタメ、全部若クハ一部ヲ一時敵火ノ有効限界内ニ立タシムルモ亦タ緊要ナリトス、

是レガタメ基礎トナシ得ベキモノハ戰機トス、戰機ハ指揮官ニ最後ノ決心ヲ確定セシムルニ關シテ緊要ナルモノニ非ラズ、却テ指揮上ノ威信ヲ、指揮官自カラ部下軍隊ニ指示スルタメ、換言スレバ、部下ニ任務ヲ與フルニ際シ必要ナルモノトス、

戰鬪命令ナルモノハ、任務ヨリシテ湧出スル要點ヲ發見セシメ、該要點ヲ隊形撰定、及ビ戰鬪働作ニ對シテ有効ナラシムル如クスルヲ以テ、

一層命令ノ巧妙ナルモノトセリ、  
 假設敵演習ノ利害ニ關シテハ、次ノ觀察ヲ惹起スルヲ要ス、即チ一定ノ標目ニ依ツテ常ニ自己ノ所在ヲ明カニ表示スル敵專ラ空想ニノミ依ラザル敵ハ甚ダ真正ノ活動力ニ乏シキモノナリト雖モ、其利益トスル所ハ、戰鬪正面ヲ側方ニ延伸スルノ容易ナルニ在リ、然レモ利害得失ノ事物ニ纏綿スルハ天地ノ常理ナリ、假設敵演習モ亦タ以上ノ利益アルト同時ニ一ノ裏面ヲ有ス、何ゾヤ曰ハク、戰鬪演習中ニ於テ一ノ重要物件タル對敵思想ノ缺乏スルト是ナリ、然レモ假設敵ノ兵力、實員軍ト殆ンド同等ノ兵力ニ編組セラレアルモ、及ビ又彼我兩軍共ニ自己ノ働作ヲ各自ノ指揮官ノ命令ニ適合セシメ、決シテ演習計畫者ノ意志ヲ迎フルコトナク、只ダ對抗スベキ標準ニ基ヅキ、相互ニ自軍ノ目的ヲ正當ニ達スベキタメ、確實ナル狀況判斷ニ依リ、決心ヲ確定スルモハ、假設敵演

習ト雖モ、大ナル利益ヲ以テ演習セラレ、ヲ得ベシ、

「モルトケ」將軍ノ言ニ依レバ、「戰畧ト雖モ、其秘訣トスル所ハ、戰爭指揮上ニ強健ナル人類の理性ヲ應用スルニ在リ」ト、是ニ由リテ之ヲ觀レバ戰術ナルモノハ、人類の理性ヲ最高程度ニ發展スルヲ要スルモノナルヲ知ル、然ルニ大組織ニ因リテ成立セル戰爭、即チ大戰略ナルモノハ、決シテ單純ナルモノニ非ラズ、夫レ故ニ吾人ハ戰略ヨリ確乎タル原則ヲ摘出シ、是ヲ學習スルノ方法ヲ考ヘザル可ラズ、即チ若シ夫レ精氣ニシテ各種ノ物質ヲ支配シ、炯々タル活眼ヲ以テ、萬般ノ可能ヲ認識スルノ能力アルモノニシテ、始メテ強健ナル人類の理性ヲ先ニシ、然ル後チ應用ニ移ルヲ得ベキナリ、

然レモ人類の理性ヲ應用スルハ、原則上、及ヒ有形的ノ研究ノミニ依リテハ、決シテ收得シ得ベキモノニ非ラズ、故ニ人類の理性ノ一部ヲ正

當ニ應用シ是ガ價值ヲ演習スルガタメニハ戰術上ニ於テ諸種複雜ナル處置ヲ實施シ之ヲ研究スルノ外ナキナリ、

夫レ然リ然レモ模範的戰場ニ於ル各種ノ現象及ビ戰術界ニ於ケル諸種ノ意見ハ歡迎スベキ價值アル良好ノ戰術教師タルモノトス、

突撃戦法

「シエルツフ氏ノ『正規攻撃説』ハ戰術界ニ於ケル一ノ存命物ニシテ重キヲ措クノ價值ナシ然レトモ危急存亡ノ場合ニ際シ最後ノ手段トシテ大ニ世上ノ賞讃ヲ得タル彼ノ「ボグラッスキ」氏ノ『運動中ニ於ケル射撃』ノ時機ニ在リテハ「エフ、ヘーニヒ」氏ノ攻勢防禦説モ亦タ決シテ賞讃ノ範圍内ヨリ排除スベキモノニ非ラズ、

練兵場ニ於ケル演習ハ下ハ小單位ノ動作ヨリ上ハ特種ノ編合ニ於ケル戰鬪經過ヲ現出スルタメ有利ノ機會ヲ呈ス、

標旗

是レガタメ標旗ハ一ノ良好ナル補助材料トス然レトモ練兵場ニ於

テスル標旗ノ使用法ハ機動演習ニ於ケル假設旗ノ使用トハ自然ニ差異アルヘキハ看過セラレザル一緊要ナリ、

練兵場ニ於ケル演習ノタメ標旗ヲ次ノ如ク使用セバ格外ノ利益ヲ現ハスモノトス即チ彼我兩軍戰鬪線ノ區分ヲ教示スルニ當リ標旗ヲ練兵場外遠距離ノ地點ニ植立シ以テ敵ノ所在ヲ示シ排開運動間此ノ敵ニ對シテ實際ニ顧慮セシムル如ク之ヲ使用スルニ在リ、

其他分解演習ニ於テモ亦タ標旗ハ軍隊展開ノ地域ヲ制限スルト同時ニ戰鬪正面擴張ノ度及ビ兵力分解ノ形狀等ヲ表示スルニ利益多シトス、

然レモ戰鬪動作ノ實行ヲ主眼トセル演習ニ在テハ敵ヲ表示スルニ假設旗ヲ使用スルコトナク可成實設敵ヲ以テスルヲ良トス、

假設旗ヲ使用シテ行フ演習ハ動モスレバ正面ニ於ケル増加即チ伍

隊部ノ限

間増加側方ノ延伸増加等實際ノ狀況ニ反スルコト多シト雖モ此ノ弊害ヲ除去センコトハ甚タ困難ナリトス然ルニ前項ノ方法ニ從ヒ實設敵ヲ以テスル時ハ戰鬪ニ際シ自然ニ敵ノ正面及ヒ側方ニ於テスル増加ヲ制定スルノ利益ヲ生ズベシ、

之ニ反シ戰鬪働作ヲ演習セシムル場合ニ在リテモ亦タ標旗ヲ使用スルノ必要ヲ認ムル場合アリ即チ側方ニ假定セラレタル隣接部隊若シクハ比隣地形ヲ制限シ是レニ由テ散開隊次ノ正面擴張ニ制限ヲ與ヘント欲スル時展開正面ノ端末點ヲ標示スルタメ假設標旗ヲ利用スレバ利益多シトス、

損傷旗ハ對抗スル兩軍中ニ於テ發生スル損害ノ程度ヲ假定スルモノニシテ軍隊ノ中央兩翼若シクハ獨立シテ戰鬪ニ從事スル部隊中ニ植立シ戰鬪間續發スル損害ノ廣度ヲ示スル標旗トス是レニ依リ部隊

防禦及ビ攻撃

ニ波及スベキ損害ノ映響ヲ現出シ演習上ニ利益ヲ與フルヲ得ベシ戰線内ノ大ナル空隙ハ若シ戰鬪正面ノ擴張後方ニ引退シテ位置シアル兵力ト同等ナル時ハ兩方面ヲ依托セラレタル大隊ニ使用シ得ベキ或ル翼大隊ノ占有スベキ地域ヨリ遙カニ大ナル空隙ヲ與ヘ以テ之ヲ表示スルヲ得ベシ、

火戰ニ於テ擴張セラレタル正面ヲ以テ敵ヲ攻撃スルハ正シク平行線ニ重疊セラレタル隊形ヲ用ヒテ敵ノ射擊正面ニ向ツテ攻撃スルモノニ比シ其指揮比較的ニ困難ニ陷ルモノトス此ノ顧慮ヨリスルモ亦タ標旗ノ使用ハ此演習ヲ極メテ單簡ニ且ツ甚タ容易ニ實施セシメ得ルモノトス、

練兵場ニ於テスル防勢ハ通常特別ナル方法ヲ以テ甚ダ有利ノ形勢ニ轉置セラルモノトス其原因ハ甚ダ明瞭ナリ蓋シ射擊効力ノ缺乏

騎兵搜索ノ不完全、及ビ火力ヲ示スタメニ不足ナル擬製彈藥等ハ、攻者ニ突撃ヲ實施セシムルタメ、實際ニ於テハ發見スルヲ得ベキ敵狀ヲモ見得ベカラシム、故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ、特別ニ審判官ヲシテ狀況ヲ與ヘシメ、其他ノ場合ニ當リテハ、火力ニ就ヒテ固有ノ判斷ヲ爲サシムルヲ兩軍ニ一任ス、攻者ハ短時間火戰ヲ交ヘタル後チハ直チニ意志、即チ射撃効力ノ不足ヲ、個人的勇氣ニ依ツテ、補償セントスルノ意志ヲ現ハスモノトス。

何故ニ密集部隊ガ、屢々敵火ノ有効界内ニ自カラ曝露スルカ、是レ意志的、原因ノ存スレバナリ、原因トハ何ゾヤ、戰術上ヨリ見ル時ハ、假令正當ト認メ難シト雖ドモ、全軍隊ヲ確乎動かス可カラザル信用、即チ自力ニ依ツテ、強盛ナル攻勢動作ニ、教育セントスル意志ニ外ナラズ、南亞戰ノ當時、若シ獨逸軍ヲシテ英軍ノ位置ニ立タシメバ、斯ク不當

ノ密集、及ビ不利ナル配備ニ因リ、實際英軍ノ蒙リシ如キ失敗ヲ演スルコト勿ルベキハ、過去ノ戰役ニ於テ確實迅速ニ戰爭ノ目的ヲ達成セシ事實ニ照ラシテ、明カニ了解スルヲ得ル所ナラン、

獨逸軍隊ハ、最モ嚴肅ナル軍紀ニ依リテ、速カニ各種ノ刺戟ニ反應ヲ發生スル如ク、甚タ鋭敏ニ教育セラレアリ、然レモ亦タ斯ノ如キ特有ノ長所ハ、特別ノ變化アル豫兆ナルヲ以テ、慎重丁寧ニ處置セザル可ラズ、是ニ由リ眞面目ノ場合ニ當リテハ、戰爭上ノ編制ニ於ケル、統一の訓練ヲ爲シ得ル限リ注意スルヲ要ス、

戰鬪指揮ノタメニスル地區ヲ、直チニ一ノ地形ト見做シ、以テ形式的現象ヲ防ガントスルハ、練兵場ノ應用ニ關シテ、有利ノ處置ナリトス、各種ノ場合、殆ンド平均ナル地形ニ於テスラ、攻者ト防者トヲ、相關的ニ同一高度ノ狀況ニ結ビ付クルハ、可能の事項トス、防者若シ高キ鹿柴、若ク

ハ人工的ノ土壘ヲ利用スルトキハ、演習ノ初期ヨリシテ攻者ハ、緻密ニ地形ヲ利用スルヲ得、且ツ迅速ナル躍進ヲ行ヒ得ルモノトス。フオン、シユリヒチング「將軍曰ヘク『高地ヲ正當ニ注目スルモノハ、戰場ノ瞰制ヲ決スルモノナリ』」ト、故ニ練兵場ニ在テ微弱ナル高地線ヲ利用スルモ、防者ハ常ニ戰場ノ瞰制ヲ達シ得ベク、是ニ依リ攻者假令ヒ優勢ノ兵力ヲ有スルモ、到處常ニ不充分ナル掩護下ニ立タザルヲ得ザラシム、防禦ニ當リ著シカラザル地點ニマデモ、銳利ナル眼界ヲ向クルヲ、換言スレバ、陣地全般ノ地形ヲ、普ネク微細ニ視察セント欲セバ、前地ハ我砲火ヲ以テ確實ニ占領セラレ、決シテ敵火ノタメニ專制セラル、コナキヲ要ス、然ル時ハ守勢ニ於ケル不利ト、困難トヲ醫治スルヲ得、敵ヲシテ極メテ長ク我有効射擊界内ニ止マラシメ、而シテ各射擊距離上ニ在ル敵ノ單獨兵ト雖モ、明カニ注視シテ射擊スルヲ得ベキナリ

## 工具

其他防禦ニ在ツテハ、過早ノ戰鬪展開ヲ避ケ、逐次ニ第一線ニ兵力ヲ増加シ得ル如キ配備ヲ採ルコト、及ビ各下級指揮官ヲシテ、彼レノ敏捷ナル働作ヲ發揚セシムルコトハ、最モ賞讃ノ價值ヲ有ス、演習ニ於テ下級指揮官ガ、一小單位ノ部隊ヲ使用スルノ價值ハ、既ニ「グリースハイム」氏ニ依ツテ確實ニ證明セラレタリ、同氏ノ說ニ依レバ、「兵力減少スレバ減少スルニ從ヒ、使用ノ目的益々單純トナリ、之ニ反シ指揮官ノ威信、直接部下ニ映響スルコト益々増大ス」ト、練兵場ノ演習ニ在リテハ（攻撃軍）工具ヲ使用スルノ必要ヲ感ズル場合甚ダ僅少ナリ、而シテ是ヲ使用セザル時ニ際シテハ、工具ハ只ダ徒ラニ兵卒ニ繫累ヲ與フルノミ、潜行働作及ビ前進運動ニ際シテ、工具ノ妨碍ヲ呈スルハ事實ナリトス、是レ故ニ携帯ヲ容易ニスルタメ、是レニ懸吊裝置ヲ與フベキハ、實際的問題トシテ考究スルノ要ヲ認ム、



「モツデル」河附近ノ戦闘状況ニ依レバ、敵前八百米突ニ在ル英軍ノ散兵線ハ、有効ナル敵火ノ妨碍ニ依ツテ、後方ニ向ツテスル命令傳達及ビ彈藥補充ヲ遮斷セラレタリ、

夫レ散兵線ハ、自己ノ排列線内ニ於テ發生スル主ナル状況ヲ、最も良好ニ認識シアルベキハ、尙ホ一個ノ原則トシテ、絶ヘズ確守セラレザル可ラズ、後方ヨリスル數多ノ情報ハ、一般ニ訓令、併列部隊ノ状況ニ關スル通報、及ビ敵狀變化ノ通報等ヲ包含ス、若シ夫レ最も緊要ナル、且ツ最も確實ナル戦闘報告ガ、信號ニ依テ傳達セラレ、而シテ此信號部隊ガ一定ノ組織ヲ以テ編成セラレアル場合ニ於テハ、信號旗ニ依ル通信法ハ、常ニ有効ノ結果ヲ現ハスヲ得ベシ、現ニ此ノ方法ニ依リテスル戦闘部隊トノ連絡ハ、甚ダ有利ノ結果ヲ奏シ、ソノ價值ハ眞面目ノ場合ニ於テ決シテ除外スベカラザルガ如キ觀ヲ呈セシナリ、

然リ而シテ此信號通信ニ依ツテ情報ヲ送ラントスルニハ、最初先ツ特別ナル記號ニ依ツテ、信號ノ送達ヲ豫報シ置キ、然ル後チ信號ノ敵眼ニ觸ル、フナキヤ、若クハ友軍ニ良好ナル認識ヲ與フルヤヲ確メ、而ル後チ通信所ノ位地ヲ決定ス、

信號符ハ信號ノ數ニ從ヒ母音ノ文字ニ換用ス、各信號母音ハ、報告内ニ於テ使用セラレタル、主ナル言詞ノ頭字ト同一ナルヲ以テ、其學習甚タ簡便ナリトス、故ニ各報告ハ正當ニ會通セラレ、又第一線中隊ノ情報ヲ、某展望哨所ヨリ各別ニ、我が主力ノ方向ニ傳送スルヲ容易ナリ、

彈藥補充ニ關シテハ平時ヨリシテ已ニ、各兵卒ニ次ノ事項ヲ教示スルヲ緊要ナリトス、即チ假令ヒ一人ト雖トモ、可成散兵線ヨリ脱出スルヲ許サズ、若シ死傷者ノ散兵線内ヨリ脱落スルモノアルキハ、其携帶彈藥ヲ決シテ放棄スルコトナク、必ず之ヲ收集シ且ツ之ヲ他ノ散兵ニ分

配セシムヘキト是ナリ

此ノ彈藥融通法ハ或ル方法ヲ以テセバ、最モ適當ニ演習スルヲ得ベシ、即チ演習中某兵卒ヲ負傷者ニ擬シ、散兵線ヨリ落伍セシムルコト是ナリ、攻撃ノ場合ニ在リテハ、負傷者ハ命令アルマテ現地ニ横臥セシメ、而シテ後チ爲シ得レバ補充兵トシテ、再ビ之ヲ散兵線ニ招致ス、防禦軍ニ在リテハ、負傷兵ヲ匍匐シテ火戰ヨリ退却セシムベシ、是レ攻者ヲシテ防者ニ發生スル損害ノ度ヲ、損傷旗ニ依リテスルニ比シ、一層困難ナラシメンガ爲ナリ、

「ブーア」ノ戰鬪法ハ總テ守勢ニ止マラズ、時トシテハ攻勢戰法ヲ採リ、痛ク英軍ヲ苦メタリ、是ニ依リ形式的ニ「ブーア」ノ戰法ヲ模倣スルノ傾向ヲ豫防スルタメ、有効ナル方法ヲ説示スルヲ得、

英軍ニシテ六マイル以上ノ正面ニ擴張セル彼ノ「ブーア」ノ陣地ヲ突

突威ノ實

破セントスル計畫ヲ正當ナリトセバ、英軍ノ失敗ハ全ク彼ノ思考ノ不  
正當ニ起因セシモノト評スルヲ得ズ、スピオンコーブノ如キ良好ノ陣  
地ト雖モ、亦タ局部ノ弱點ヲ有シ、正面攻撃ニ依リテ、遂ニ敵ノタメニ占  
領セラレタルニ非ラズヤ、是ニ由リテ次ノ推論ヲ生ズ、曰ハク「連發銃ノ  
有効ナル射撃アルニ不拘、攻者ハ必要ノ精力ヲ以テ、火器ノ使用ヲ妨グ  
ル敵ノ陣地ヲ急襲的ニ奪略シ、且ツ又損害ヲ減少スルタメ、敵ノ包圍ニ  
對シテ配備セラレシ翼梯隊ガ、廣濶ナル地域ヲ通過スル以前ニ於テ、擴  
張セル敵ノ陣地ヲ突破シ決戰ヲ求メ得ベキ時機ハ尙ホ未タ過去ニ屬  
セズ」ト、

### 第四、跋

「グラッセウキツ」曰ハク、「防禦ナルモノハ、消極的ノ目的ヲ達セントスルノ

ミノ場合ニ當リテハ、戰術上比較的強固ナル方式ナリト」此言ノ眞理ハ、ブリアノ防禦法ニ依ツテ、自カラ明カニ證明セラレタリ、其他南亞共和國ニ取リテハ、甚ダ不利益ナル結果ヲ以テ其局ヲ終リシ英杜ノ戰役ハ、大推理家ノ鋭敏ナル活眼ヲ證明セシモノナリ、彼レノ言ニ曰ハク「只ダ專ラ防禦ノミニ依ツテ、勝利ヲ得ント欲シ、且ツ全然攻撃計畫ヲ有セザル戰爭ハ、絶對的受働ノ性質ヲ有セル戰鬪ト等シク不利ナル者トス」ト、

以上ノ理由ヨリシテ考察スルモ、ブリアノ戰法ハ、大體ノ要點ニ於テ多クノ缺點ヲ有セシ、及ビブリア側ニ於ケル局部ノ勝利ハ、專ラ個人的堪能ニ依リテ達成セラレシコトハ、世人ノ認識スル所ナリ、只ダ吾人が模倣スルニ足ルベキブリアノ戰鬪行爲ハ、彼等ノ獨立シテ武器ノ使用、及ビ地形ノ利用ニ巧妙ナル點ニアリ、是等ノ性質ニシテ、若シ精巧射

撃ヲ以テ結合セラレ、完全ナル教育ヲ有スル吾人開明國ノ軍隊中ニ存在スルアラバ、散兵教育上模範的價值ヲ發見スルコト、大ニ容易ナルヲ得ベケン、

「ベルネック氏曰ハク「凡ソ攻勢作戰ヲ採ラントスル軍隊ハ、敵ヲ攻撃シ得ベキ勢力ヲ有セザル可ラズ、勢力トハ兵力及ビ物質的ノ威力ヲ意味ス、故ニ攻勢作戰ト、軍隊ノ勢力トハ相平行スベキモノナリ」ト、實ニ「ベルネック」ノ言ノ如ク、戰勝ノ原因ハ、確カニ斯言ノ裡ニ含蓄セララル、爰ニ兵力及ビ物質的狀態ヨリ觀察セバ、英軍ハ確カニ攻勢作戰ニ適當セル勢力ヲ有セリ、故ニ南亞戰役ニ於ケル勝利ハ、徹頭徹尾英軍ニ歸スベキ筈ナルニ、實際ノ場合ニ於テ、戰勝ノ効果ハ、常ニ適當ナル精力ノ發展ニ依テ成立シ、而シテ又此際南亞ノ地形及ビ其戰鬪法等ハ守者ニ完全ナル勢力ノ發展ヲ許セシヲ以テ、英軍ノ犯セシ過失ハ、茲ニ益々多キヲ加フ

ルニ至リシナリ、

吾人ハ英軍失敗ノ事蹟ニ鑑ミ、我軍隊モ亦タ將來、彼レト同一ナル失敗ヲ演スルコト勿ラシメンガタメ、其豫防手段ヲ探究スベキ緊要ヲ認ムルト同時ニ、吾人ハ他ノ一方ニ於テ、斯ノ如キ例外ナル「ブーア」式戦法ヲ貴重シ、之ニ模倣スルノ不利益ナルコトヲ感ゼズンバアラズ、

現時ニ於ケル攻勢ハ、昔日ニ比シ非常ニ困難ナル任務トナルニ至レルコト論ヲ待タズ、故ニ戰場就レノ場合ニ於テ、南亞ノ戦況ト同一ナル機運ニ遭遇シ得ザルコトハ豫シメ覺悟シアルヲ要ス、

是レヲ以テ、過去ノ战役當時ニ於ケル、軍隊教育程度ニ適合セシメラレタル方法、即チ獨立シテ戦闘ニ従事スルニハ、軍隊ヲ小ナル單位ニ區分スルヲ許ストノ法則ヲ以テ、現今吾人ノ採用シツ、アル戦術ヲ破壊セザル可ラザルノ理由ト認ムルヲ得ズ、

彼ノ千八百六十六年战役ニ於テ、大隊縦隊ガ戦闘ノ影響ニ依リ、半大隊ニ分離セラレシ時、及ビ千八百七十一年战役ニ於テ、同一ノ原因ヨリシテ、中隊縦隊ヲ避ケザル可ラザリシ時ノ如キ、爾後ノ戦闘區分ヲ、小隊ノ自由ナル使用ニ求ムベカリシハ、明ラカナル事項トス、然リ而シテ、我が軍ノ基礎タルタベキ、論旨ヲ現實スルタメ、此小隊區分ヨリシテ、戦闘上有益ナル個人ノ獨立心ヲ、最も良好ニ發展セシメタリ、然レトモ、大兵團ヲ戰場ニ展開スルノ今日ニ於テハ、損害ニ對スル處置ヲ發見シ、軍隊ヲ多數集團シテ前進セシメントスルノ方法ハ、攻撃法ノ種類ト共ニ、或ハ著述ニ依リ、或ハ口演ヲ以テ、其必要ヲ説明セラル、ニ至レリ、然レトモ、其攻撃方法ノ如何ニ論ナク、一層長久ニ攻勢力ヲ保持セント欲スル場合ニ在リテハ、戦争指揮ノ良否ハ、勝敗ノ原因ニ大影響ヲ及ボスモノトス、故ニ現今ノ戦争ニ於テ、下級指揮官ハ、只ダ普通ニ

彼ノ任務ヲ盡クスヲ以テ足レリトセズ、之ヲ從來ノ下級指揮官ニ比スレバ、指揮ニ關シテ數倍ノ技倆ヲ有スルニ非ラザレバ、完全ニ部下ヲ指揮スル能ハザルニ至レリ、

南亞戰ニ於テ英軍ガ多大ノ損害ニ餘儀ナクセラレ、始メテ密集隊形ヲ以テスル運動ヲ廢止スルニ至リシハ、事既ニ遲シ、其未ダ斯ノ如キ不利ノ境遇ニ出會セザル以前ニ於テ豫シメ之ヲ研究考慮セザル可ラザリシナリ、然レトモ戰鬪加入ハ、必ラズ各建制部隊ノ圓滿ナル展開ヲ以テ開始セラレザル可ラズトハ實ニ辛フシテ推論セラレ得ル所ニシテ、部下ノ諸隊ヲ分割スベキノ時機ヲ敏捷ニ認識シ、之ニ應ズルノ處置ヲ講ズルハ、下級指揮官ノ最緊要務ノ一ニ屬ス、然レトモ又狀況是ヲ許ス時ニ於テハ、可成的長ク部下軍隊ヲ自己ノ手裡ニ掌握シ、時機ニ應ジ決勝點ニ向ツテ精銳ナル兵力ヲ使用スルハ指揮官ノ大ニ勉ムベキ所ナ

リ、

是等ノ要求ハ、步兵戰術ニ充分ナル餘地ヲ開カントスル一般ノ意見ニ外ナラズ、然レトモ此ノ關係ニ於テ、中隊縱隊戰術ノ變移ハ、小隊戰術ニ大ナル承認ヲ意味スルモノ、如シ、戰況最モ困難ナル部分ニ於テハ、火線ノ指揮ヲ小隊長ノ獨斷ニ委任シ、依ツテ以テ前進ノ動機ヲ待チ、攻撃時機ノ成熟ヲ認メザル可ラズ、

中隊長ハ局部ノ關係ニ於テハ、戰鬪指揮上、指揮官ヨリハ一層困難ノ甚シキモノアリ、其他ノ場合ニ於テハ、部下三小隊ノ運用(中隊若シ四小隊ヨリ編成セラル、時ハ尙ホ可ナリトス)恰モ大隊長ガ部下大隊ヲ戰鬪地區内ニ於テ區分スルト、殆ンド同一要領ニ依テシ、且ツ又同法ニ依リテ部下ヲ逐次ニ戰線ニ加入セシメバ、中隊長ハ兵力ノ節約、局部ノ注意、及ビ地形ノ價值等ヲ有効ニ發揚スルヲ得、彼レノ技倆ハ自カラ、現ハ

ル、ニ至ルモノトス、

小隊長ハ所屬中隊長ノ號令ニノミ從ツテ運動スルヲ以テ足レリトセズ、却テ狀況ニ應ジテ敏活ニ働作スベキモノニシテ、其分隊ヲ戰線ニ加入スル以前、併列若クハ重疊、正面若シクハ側面、密集若クハ散開、所要ニ應ジ迅速ナル展開ガ、縱隊ヨリ直ニ實施セラレ得ル如ク、戰況ニ從ツテ隊形ヲ編成スベキ責任アルモノトス、

小隊内ニ於ケル區分、分隊ニ區分スルヲ云フハ、下級指揮官タル下士ニ、適切ナル働作範圍ヲ構成シ、及ビ小隊内ニ於ケル個人的ノ獨立ヲ防遏スルタメ、特ニ必要トス、然レトモ、獨逸步兵操典第二百二十三項ニ、教示セラレタル如ク、各人間ニ一步乃至二步ノ間隔ヲ存セシムルコトノ外、更ニ分隊ヲ區分スル如キハ、指揮上ノ關係ニ於テ之ヲ許ササルヲ普通トス、之ニ反シ、援隊タル他ノ小隊ヲ適當ノ時機ニ於テ散兵線ニ増加セ

ントスルニ當リ、狀況、地形之ヲ許ストキハ、散兵線ノ後方適宜ノ距離ニ於テ之ヲ橫隊ニ位置セシメ、所要ニ應ジ分隊毎ニ散兵線ニ増加セシムルヲ可トス、就中援隊ヲ橫隊ニ位置セシムルハ、戰線ニ直角ニ落下スル敵彈ニ對シ、最モ顯著ノ利益ヲ有ス、數線ニ重疊セル隊形ハ、損害ヲ蒙ル一甚タ多シ、而シテ個人的獨立ノ度、即チ散兵各自ノ間隔ニ關シテハ、特ニ武器ノ使用、及ビ地形ノ利用等ニマデ注意ヲ伸展スルヲ要ス、

以上陳述セシ諸種ノ展開働作ハ、敵ト遭遇ノ時機、及ビ急襲的攻撃ノ場合ニ於テ、其方法ニ變化アルヘキハ、無論トス、然レトモ、其他ノ場合ニ於ケル總テノ展開働作ハ、「フエルデー」將軍ガ「戰爭ニ就テ」ノ研究ト名クル著書ニ於テ述ベタル如ク、無烟火藥ノ採用以來、攻撃ノ端緒ハ、從前ニ比シ、比較的、多クノ時間ヲ要スルニ至リシコトヲ考慮セザル可ラズ、上來陳ベ來リタル「ブーア」戰ニ關スル數多ノ考察ハ、未ダ其事實ノ結

果ニ對スル要求ヲ叙述セザリシト雖モ、先ツ爰ニ其論結ヲ告グントメ  
此ノ未判決ナル數多ノ考察ハ決シテ純然タル學說ノ階級内ニ位置  
セシムル能ハズ、寧ロ實驗的ノ性質ヲ有シ、而シテ如何ナル方法ヲ以テ  
セバ、是等ノ考察ハ、歩兵科ニ向ツテ有益ニ利用セラレ得ルカヲ熟考セ  
シムル目的ヲ以テ、個々ノ事實ヲ客觀的ニ、説述スベキ願慮ヨリシテ起  
稿セシニ過ギザル也、

「フーア」戰論終

明治二十六年十二月廿五日印刷  
明治二十七年一月五日發行

（「フーア」戰論）  
（正價金五拾錢）



著作者 唯心 劍士  
發行者 上田 賴三  
印刷者 藤本 兼吉  
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地  
株式會社 秀英 舍

發行所

兵 林 館

（電話番町六八九）

東京麴町區平河町四丁目一番地

陸軍歩兵大佐 渡邊 祺十郎 殿閣  
陸軍歩兵中尉 奧田 兵庫殿校訂  
陸軍歩兵少佐 橋本 勝太郎 殿校閱  
陸軍歩兵中尉 奧田 昇殿編纂

# 野 外 要 務 私 解

全四冊(壹部ニ付豫約價金八拾六錢)

内譯 卷一、金拾貳錢○卷二、金貳拾八錢○卷三、金拾八錢○卷四、金貳拾八錢○  
郵稅實費ヲ申受候

本書ハ野外要務ニ關シ明瞭ナル解決ヲ與ヘラレタルモノニシテ本令ト相對照シテ研究スルニ頗ル便利有益ナル書ナリ苟モ斯道ヲ研究セラル、諸君ハ必ズ該書ヲ座右ニ備スル可ラズ今其目次ノ大要左ノ如シ

目次

第一卷	第一篇	戰闘序列軍隊區分	第二篇	司令部ト軍隊トノ連繫	第一章	命令									
○一	陣中日誌	○二	作戦命令	○三	日々命令	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略
第二章	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		
第三章	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		
第四章	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		
第五章	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		
第六章	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		
第七章	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		
第八章	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		
第九章	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		
第十章	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		
第十一章	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		
第十二章	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		
第十三篇	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		
第十四篇	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		
第十五篇	陣中日誌	○一	通告	○二	詳報	○三	掌圖	○四	略圖	○四	陣中日誌	○三	略		

1/4/38



318  
126

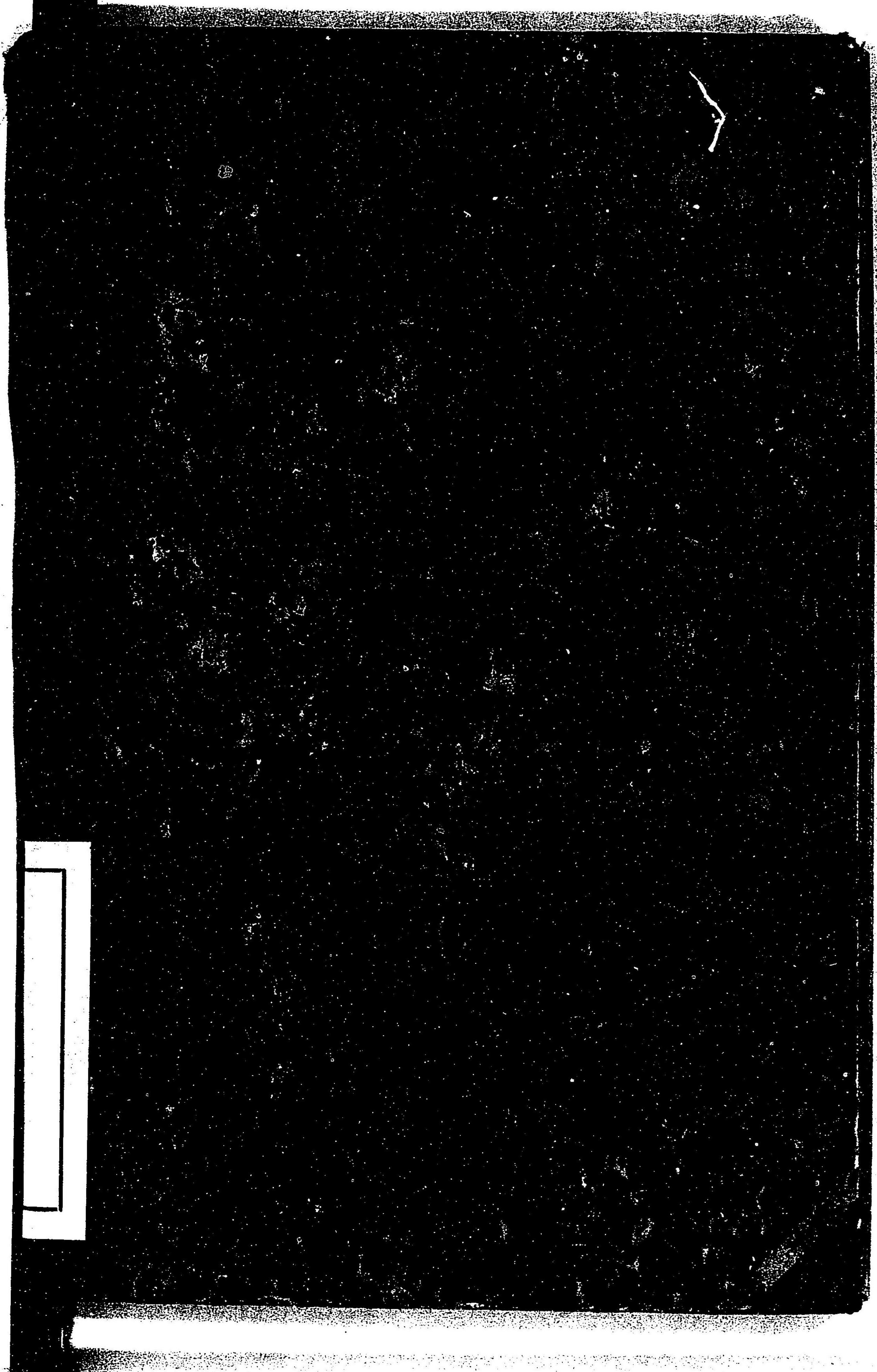
陸軍步兵大佐渡邊 陸軍少佐佐藤 陸軍少佐渡邊 陸軍少佐佐藤 陸軍少佐渡邊 陸軍少佐佐藤

### 野 外 要 務 私 解

第一、金拾貳錢○卷二、金貳拾八錢○卷三、金拾八錢○卷四、金拾八錢○

野 外 要 務 二 關 シ 明 瞭 ナ ル 解 決 ヲ 興 ヘ ラ レ タ ル モ ノ ニ シ テ 本 令 下 相 對 照 シ テ 研 究  
可 シ 其 目 次 ノ 大 要 左 記 如 シ

- 第一編 野 外 要 務 大 目 次
- 第一章 野 外 要 務 概 論
- 第二章 野 外 要 務 之 概 論
- 第三章 野 外 要 務 之 概 論
- 第四章 野 外 要 務 之 概 論
- 第五章 野 外 要 務 之 概 論
- 第六章 野 外 要 務 之 概 論
- 第七章 野 外 要 務 之 概 論
- 第八章 野 外 要 務 之 概 論
- 第九章 野 外 要 務 之 概 論
- 第十章 野 外 要 務 之 概 論
- 第十一章 野 外 要 務 之 概 論
- 第十二章 野 外 要 務 之 概 論
- 第十三章 野 外 要 務 之 概 論
- 第十四章 野 外 要 務 之 概 論
- 第十五章 野 外 要 務 之 概 論
- 第十六章 野 外 要 務 之 概 論
- 第十七章 野 外 要 務 之 概 論
- 第十八章 野 外 要 務 之 概 論
- 第十九章 野 外 要 務 之 概 論
- 第二十章 野 外 要 務 之 概 論



318  
126

051951-000-2

318-126

ブーア戦論

唯心剣士/著

M37

BFB-0867

